

1633

元老院會議筆記

明治十五年

自六月
至十二月

自第三百三十号
至第三百五十七号

記錄課



十二番	渡邊 清
十六番	伊丹 重賢
十七番	鍋島 直彬
十八番	九鬼 隆一
十九番	大給 恒
廿一番	楠本 正隆
廿二番	野村 素介
廿三番	箕作 麟祥
廿四番	西 周
廿五番	東久世通禧
廿六番	榎村 正直

廿九番	林 友幸
卅一番	柴原 和
卅二番	鍋島 幹
卅三番	渡邊 洪基
卅四番	三浦 安
卅五番	鍋島 直大
内閣委員	山尾 庸三
参事院議員	加藤 濟
参事院議員	忠友
参事院議員	同

午前第九時四十五分開場

○議長 議長ハ病痾未タ癒ヘサルヲ以テ本官代理ヲ爲シ第三百三十

號議案第一讀會ヲ開ク例ニ遵ヒ發議スヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

布告案

日本銀行條例左ノ通制定ス

日本銀行條例

第一條

日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

第二條

日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスボンダンス」ヲ締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスボンダンス」ヲ締約スル時ハ其事由ヲ大藏卿ニ具狀シテ其許可ヲ受クヘシ又大藏卿ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスル時ハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三條

日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三十ヶ年トス但株主總會ニ於テ多數ノ同意ニ依リ營業ノ延期ヲ出願スルコトヲ得

第四條

日本銀行ノ資本金ハ壹千萬圓ト定メ之ヲ五萬株ニ分テ一株貳百圓トス但株主總會ニ於テ多數ノ同意ニ依リ資本金ノ増加ヲ出願スルコトヲ得

第五條

日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サス

第六條

日本銀行ノ株主トナラントスルモノハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第七條

資本金總額五分ノ一即チ貳百萬圓ノ入金アル時ハ營業ヲ開始スルヲ得ヘシ但資本金募集ノ手續ハ定款ヲ以テ定ムル者トス

第八條

營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ内幾分ヲ減少シタル時ハ其事由ヲ審明シ資本入金殘額ヨリ其闕額ニ充ル迄ノ金額ヲ追募ス

ヘシ

第九條

純益金總額ヨリ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クトモ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立金ト爲ス可シ

第一 資本金ノ損失ヲ補フ

第二 割賦金ノ不足ヲ補フ

第十條

日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事

第二 地金銀ノ賣買ヲ爲ス事

第三 金銀貨或ハ金銀塊ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第四 豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金取立ニ從事スル事

第五 諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬並諸證券類ノ保護預リヲ爲ス事

第六 公債證書其他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ當座勘定貸又ハ定期貸ヲ爲ス事但シ其金額及利子ノ割合ハ總裁副總裁理事及監事ノ協議ヲ以テ時々決議シ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條

日本銀行ハ前第十條ニ記載スル事業ノ外左ニ掲クル件々ハ勿論其

他諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ得ス

第一 不動産及ヒ銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第二 本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此株券ノ買戻ヲ爲ス事

第三 諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スル事

第四 本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動産ノ所有主タル事

第十二條

政府ノ都合ニ由リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヒニ從事セシムヘ

第十三條

日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但此銀行券ヲ發行セシムル時ハ別段ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スル者トス

第十四條

日本銀行ハ諸手形及切手ヲ作ルヲ得ヘシ

第十五條

日本銀行ハ公債證書ヲ買入又ハ之ヲ賣拂フコトヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ大藏卿ノ許可ヲ得ヘキモノトス

第十六條

日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ綜理スル者トス此

外ニ監事三人乃至五人ヲ置クヘシ

第十七條

總裁副總裁ハ任期五ケ年トシ總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トス但任期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス

第十八條

理事ハ株主總會ニ於テ撰舉シ大藏卿ノ命スル者トス但創立第一回ハ五ケ年ノ任期ヲ以テ大藏卿之ヲ特命スヘシ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ撰舉シ理事監事ノ任期ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十九條

理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス

第二十條

大藏卿ハ特ニ監理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十一條

日本銀行ハ本支店出張所及約定店等ノ營業上百般ノ景況ヲ調査シ少クモ毎月一回之ヲ大藏卿ヘ報告ス可シ

第二十二條

日本銀行ハ本條例ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作り政府ノ許可ヲ受クヘシ但定款ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スル時ハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受ク可シ

第二十三條

政府ハ銀行諸般ノ業務ヲ監督スルノ權ヲ有ス其營業上條例定款ニ

背戾スル事ハ勿論政府ニ於テ不利ト認ル事件ハ之ヲ制止スヘシ

第二十四條

此條例ヲ改正増削スル時ハ其施行ノ日ヨリ三ヶ月以前ニ之ヲ布告スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○番一 番山尾 本案發行ヲ要スルノ旨趣ハ過ル十六日大藏卿特ニ參

院シ各位ニ對シ縷々陳告セシヲ以テ今此ニ其辨明ヲ省ク然レトモ尙之ヲ要セハ番外二番ヨリ陳述スヘシ

○議長 大藏卿出院ノ際闕席ノ議官モアルヘケレハ本日更ニ内閣委員ノ職任ヲ以テ本案ノ旨趣ヲ辨明スルハ素ヨリ妨ケナクシテ事ニ便アリトス

○番三番男谷忠友 今朗讀アリシ本案第十一條日本銀行ハノ下ナル前ノ

字ハ全ク贅字ニ屬スルヲ以テ願クハ除却セラレシコトヲ

○議長 内閣委員ヨリ第十一條ノ前ノ字ハ贅字ナリトノ辨明アリ各位之ヲ領セヨ

○番二番加藤濟 本案ヲ發スルノ大意ヲ述シ抑モ日本銀行創立ヲ要ス

ルノ目的ハ方今我國金融ノ途梗塞シ隨テ貸借ノ利息昂騰シテ現ニ客歲十二月ヨリ本年二三月交ハ東京大坂トモ三割乃至五割ノ甚シキニ達シ之カ爲メ商業上非常ノ衰頽ヲ來セリ今ニシテ挽回ノ路ヲ求メスンハ如何シテ之ヲ振興スルヲ得ンヤ加之紙幣ノ實貨ト許多ノ歩合ヲ生シ理財上ノ障礙實ニ少小ニアラス蓋シ金融梗塞ノ害タル獨リ商家ノ衰廢ナルノミナラス農ニ工ニ均シク財源枯渴シ頼ム

所ノ資本ヲ闕クヲ以テ終ニ諸般ノ業務ヲ更張スル能ハサルニ至ル是レ最モ濟急ヲ要スルモノナリ顧ミテ大藏省ノ内部ヲ觀察スレハ國庫出納ノ便益ヲ圖ルヘキ機關ナク多クノ資本ハ年間駐止セリ此際ニ當テハ亦是運轉活用ノ道ヲ開カサルヘカラサルハ勿論ナリ蓋シ我國從來爲替取組ノコトナキニアラサルモ未タ充分ナル手形割引ノ便法ヲ開施セサルハ理財家ノ夙ニ遺憾トスル所タリ若シ其レ手形割引ニシテ一旦カヲ商業社會ニ得セシメハ遠近相應シ有無相通シ金融ノ實勢頓ニ振起シ其利用亦廣大ナルハ識者ヲ待テ後ニ知ラサルナリ是本銀行設立ノ要領ニシテ國家財政ノ機軸ナラサルハナシ想フニ本銀行ヲ開設スルニ至ラハ金利自カラ低下シ紙幣ノ信用厚キヲ加ヘ國庫出納ノ便ヲ助ケ金融疏通ノ道ヲ得庶業ノ衰廢モ

亦從テ挽回スヘシト即チ大藏卿ノ本議ヲ上申スル所以ニシテ政府モ亦之ヲ嘉納シ終ニ本院議定ニ付セラル、ニ至ルモノナリ請フ速ニ之ヲ可決アラシコトヲ

○十六番 伊丹重賢 本案ノ大體ヲ賛成ス抑モ維新以來財政ノ困難ヲ累テシハ贅言ヲ要セサルモ目下番外二番ノ辨スル如ク紙幣ノ價格低下セシヨリ世間驚クヘキ波瀾ヲ生シ金融ノ閉塞ニ從ヒ金利ノ高騰ヲ促シ之カ爲メ諸業萎靡シテ咸ナ束手策ヲ施ス能ハサルノ形行トハナレリ今幸ヒ此案ヲ下シ財政ノ改良ヲ務メラル、ハ本官ノ最も喜フ所ナリ蓋シ日本銀行ヲ設立セハ前ノ積憂悉ク消散スヘキヤ否ヤハ素ヨリ豫信シ難キニ似タリト雖モ各條ヲ熟覽スルニ利アリテ害ナク窃ニ當局者其人ヲ得タリト歎美スル所ナリ然レトモ表面見テ

利益アルモノハ裏面失弊ナキ能ハサルハ事物ノ通理ナリ故ニ茲ニ當局者ニ在テハ事々着實ヲ主トシ漸ヲ以テ其目的ヲ達セラレンコトヲ望ム思フニ本案ハ綱領ニシテ別ニ之ニ從フノ規則アリ相待テ業務ヲ取ルヘケレハ其甚タ精確ニ至ルハ知ルヘキナリ尙修正ヲ要スルモノナキニアラス此ノ如キハ逐條議ニ至テ之ヲ述フヘシ

○十八番 九鬼隆一 本官モ大體ヲ可トス本案ノ必用ナル所以ハ番外二番ノ説明ニテ明ナリ且説明書ニモ明載セルヲ以テ今更ニ喋々ヲ要セスト雖モ只恨ラクハ本官ハ十六日ノ質問會ニ出院セサリシヲ以テ大藏卿ノ詳述ヲ聽キ問議スルコトヲ得サリシ仍テ聊カ内閣委員ニ問フ所アラントス本官ハ單純ナル賛成者ニシテ毫モ他意ヲ挾ムコトナク唯本銀行ノ成立ヲ熱望スルヨリ之ヲ慮ルニ最初ヨリ國庫金

ノ出納ヲ之ニ命スレハ格別ナレトモ若シ然カラサレハ本銀行利潤ノ尤モ著シキモノハ手形割引ニ止マルモノ、如シ斯ノ如キハ或ハ恐ル政府之ヲ保護スルノ用意未タ厚カラサルニ似タルコトヲ元來本銀行ハ政府ト人民トノ間ニ立チ營業スルモノナレハ其盛衰ニ依リ關係太タ重大ナルヲ以テ政府ノ檢束ヲ受ルハ固ヨリ當然ナリ然ラハ則チ之ニ報酬スルノ保護モ亦厚カラサルヲ得ス故ニ其保護ノ厚薄ニ依リテ自カラ加入者ノ多少アルヘキヲ信ス既ニ定款ニ就テ之ヲ見レハ政府ハ該銀行資本金半額ノ株主タルカ如シ蓋シ從來他ノ銀行或ハ株式所等ノ株主ハ皆巨利ヲ得ルモノ、如シ本銀行ハ特ニ手形割引等ノ利潤アルヲ以テ株主ハ進ンテ之レカ募集ニ應スルノ目途アルカ内閣委員ハ實驗上充分其信スル所アルヘシ願クハ其

説明ナル說ヲ聞カン本官固ヨリ此舉ヲ贊美スルモノナレハ其危フム所ノモノハ初メヨリ能ク之ヲ看破シ豫メ堤防ヲ築キ株主等ノ續々之ニ應スルヲ待タントス惟フニ理財上ノ事ハ單ニ法律規則ノミニ依頼シテ其成立ヲ期スヘキモノニアラス唯徐々歩ヲ進メ其目的ヲ達スルニアルナリ故ニ今内閣委員ノ答辨ヲ得テ心ヲ安穩ノ地ニ置キ本案ヲ議定セントス

○番二番加藤
外二番加藤

十八番ノ質問ニ答ヘン十八番ハ此銀行條例ニ保護ノ字ナキヲ以テ其憂慮ヲ來セシカ如シ本員ハ意ヲク假令保護ノ字句ナキモ事ニ於テ害莫ルヘシ何トナレハ本銀行ハ一ニ國庫ノ出納ニ從事シ二ニ政府ニテ銀行總株ノ半額ヲ負擔シ三ニ創立後業務ノ着實ニ至ルヲ認メ銀行券ノ發行ヲ許ス等はレ皆特別ノ保護ニアラサ

ルハナシ歐洲各國ニハ久シク中央銀行アリ英ノ英倫銀行佛ノ佛蘭西銀行日ノ獨逸銀行其他白耳義ノ如キ亦財政ノ要衝ニ當ルモノアリ我國ニ於テハ原ト此類無キ所ニシテ今始メテ之ヲ設立シ財政改良ノ目的ヲ達セントス新創ノ業頗ル至難ナリ然レトモ阻心舊ニ泥ミ姑息ニ安シ猶一時ノ綱縫ニ止ム如キハ到底國家殷富ノ日ヲ見ルニ由ナシ是レ之ヲ斷行スル所以ナリ又本銀行ヲ設立シ直チニ國庫金ノ出納ヲ任センヨリハ寧ロ其業務慣熟ノ日ヲ待チ漸ヲ以テ之ヲ割與スルノ宜シキニ如カス而シテ將來ノ目途ヲ此ニ掲ルモノハ後日ニ至ラハ斯ノ如キ利源ノ深キモノアルヲ前知セシムルニ在リ是亦保護ノ意ニ外ナラス即チ第十三條ニ銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有スト云フモ同一意ナリ乞フ之ヲ領セヨ

○十八番九鬼隆一番外二番辨シ得テ明カナルモ未タ本官ノ意ヲ領セサルモノアリ本官モ亦最初ヨリ國庫金取扱ヲ命スヘシトスルノ意ニアラス固ヨリ其熟スルヲ待テ之ヲ委託セントスルニアリ而ルニ諸般ノ檢束法ハ各條ニ具備スルモ之ニ相應スル保護ノ條項ナシ此ノ如クシテ尙ホ預期スル如ク果シテ八朱以上ノ利益ヲ株主ニ配當スルヲ得ヘキ乎否又本銀行ハ特ニ手形割引ノ利益夥多ナルヲ信シテ募集ニ應スルモノ多シト認テ可ナリヤ歩ヲ徐々ニ進ムルハ固ヨリ欲スル所ナルモ或ハ恐ル其初ニ當リ株主ノ募集ニ應スルモノ少ナカラシコトヲ凡株主タラントスルモノハ其利アルヲ見テ加入スルモノナレハ能ク人情ノ趣ク所ヲ考ヘ遺算ナキニ於テ初メテ着手スヘキモノナリ

○番外三番男谷忠友 十八番ハ本銀行組織上檢束法多クシテ保護ノ點之ニ合ハス且ツ初メ利益少ナキヲ以テ募集ニ應スルモノ少カラントノ注意ナリ然ルニ定款第三十六條第一項ニ人民所有ノ株金ニ對シ年八分ノ割合ヲ以テ配當スヘシトアリテ其第二項ニ政府所有ノ株金ニ對シ年六分ノ割合ヲ以テ配當スヘシトアルモ其他別ニ利益ナク又特權ヲ示サ、ルモノニ似タルモ本條例第十三條ニ日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ストアリテ他日該券ヲ發行スルノ員數ハ未タ定マラスト雖モ必ス資本金ノ幾倍ヲ發行スルナルヘシ既ニ此場合ニ至ラハ設ヒ低利ヲ以テ貸渡シヲ爲スモ其運轉ニ由テ生スル所ノ利益ハ決シテ莫大ナルヘシト信ス目下純益金ノ配當或ハ八分ニ及ハサルコトアリトスルモ後來ノ目的既ニ此ノ如キモノ

アリ加ルニ彼ノ國庫金取扱ヲ命セラル、ニ於テハ該金官納ノ時期ハ毎ニ民間金融切迫ノ日ニアルヲ以テ本銀行ハ他ノ銀行諸商社等ニ對シ抵當貸ヲ爲シテ一般ノ金融ヲ疏通スルノ間其得ル所ノ益金モ亦許多ナラン總テ預リ金ノ純益ハ株金ノ利得ニ過ルモノナリ能ク此意ヲ翫味セハ利ヲ思ヒ得ヲ圖ルノ人情ニシテ豈株主ノ募集ニ應スルモノナキヲ憂ンヤ且ツ特ニ保護ノ事ヲ掲ケサルモノハ其銀行ノ資格ニ於テハ他ノ銀行ト固ヨリ異ナルコトナク又他ノ銀行ニ比シ特權多キ時ハ却テ怠慢ノ弊ヲ生スルノ基タランコトヲ恐ル、カ故ナリ

○番外二番加藤濟 番外三番ノ答辨ヲ繼キ本員モ一ノ述フヘキモノアリ本銀行ハ普通銀行ト營業ノ趣ヲ殊ニシ專ラ手形割引ノ事ヲ爲スニ

アレハ其貸付ヲ爲スモ一年半年等ノ長期限ナク長キモ百日ニ踰ヘ
 ス短キハ三日モアリ一日モアリ然ルニ今日現ニ金銀運用ノ活潑自
 在ト稱スル我普通銀行ニシテ平均十八度ノ輪回ナリト云ヘリ本銀
 行ニアツテハ輪回三四十度以上ニ昇ルノ付度ナリ聞ク英佛諸國ノ
 銀行ニシテ最モ其作用ノ妙ヲ得ルニ至テハ概チ八十度以上ニアリ
 ト云フ蓋シ其度數ニ應シ利益ノ生スルモノナレハ是レ夥多ノ利得
 アルハ知ルヘシ是ヲ以テ本銀行ノ如キモ其株主タランモノハ將來
 ノ目的ヲ立ルニ難カラス要スルニ本條例ノ精神ヲ了得セハ頓ニ企
 望ノ念ヲ生スルニ至ルヘシ

○外一番山尾庸三 十八番ノ問ニ對シテハ番外二番三番ノ答辨ニテ盡セ
 リト信ス唯十八番ハ十二條ノ政府ノ都合ニ由リ日本銀行ヲシテ國

庫金ノ取扱ヒニ從事セシムヘシトアル政府都合ノ字ニ對シ疑ヒア
 ルカ如シ之ヲ或ハ政府ハ必スト云フカ如キ意味ヲ以テ充分ニ國庫
 ノ取扱ヲ命ストセハ可ナリトナスヤ

○十八番九鬼隆一 否番外一番ノ言ノ如キニアラス畢竟最初ニアツテ株
 主タランモノ、少ナキヲ恐ル、ニ起因セルナリ番外二番三番ノ説
 明ヲ得テ足レリトス

○渡邊三番洪基 日本銀行ノ創立ハ今日財政ヲ挽回センニハ必用闕ク
 ヘカラスト雖モ本條例ヲ以テ見レハ政府ヨリ命令狀ヲ出シ一ノ銀
 行ヲ建ルト云フニ外ナラスシテ彼ノ正金銀行其他數多ノ銀行ト體
 裁畧同シ唯全株高ノ半數ヲ政府ヨリ補ヒ又國庫金ノ取扱ヲ命スト
 云フノ特例アリテ之レカ檢束法ヲ設クルモ亦已ヲ得サル理由トス

要スルニ監督ノ任ハ大藏卿ニアリテ銀行ハ其指揮ニ從フモノナレ
 ハ歸着スル所大藏卿其人ノ智識如何ニアツテ法律ニアラサルナリ
 苟モ當局者ニ於テ必要ナリトシテ設ル所ノ法案ナレハ其意ニ委シ
 テ可ナリトス故ニ文字ノ外ハ唯贊成ヲ表スルニ止マルノミ況ンヤ
 日本銀行營業上人民一個ノ權利ヲ定ムルモノハ本案ニアラスシテ
 却テ定款ニアルヲヤ又兌換銀行券發行ノ日ハ更ニ別段ノ規則ヲ制
 定セラル、トアレハ今本案ニ就キ異議ノ容ルヘキナシ或ハ云ク此
 ノ如クニテハ銀行株主ノ募集ニ應スルモノ少ナカラント然レトモ
 本條例ハ命令書ノ如キモノニシテ尙ホ正金銀行ノ許可ヲ得シ命令
 書ト性質ヲ同フスルモノナリ其株主募集ノ便宜ノ如何ハ自ラ當局
 者ノ胸中ニ存スル所ニシテ敢テ本官等ノ過慮ヲ要セサルヘシ

○卅一番 柴原和

本官モ大體ヲ可トス其要ハ大藏卿ノ說話ヲ聞キ各條
 ニ就テハ内閣委員ノ説明アリテ其旨ヲ知ル本案ハ條項頗ル整理シ
 加ルニ定款モ完備セシモノナレハ速ニ發表アラシコトヲ望ム然レ
 トモ斯ル大事業ヲ起サントセハ隨テ弊害アラシコトヲ恐ル、ヲ以
 テ豫メ注目セサルヲ得サルモノアリ即チ第二條ノ如キ大ニ之ヲ修
 正セント欲スルナリ抑モ第二條ノ精神タル日本銀行本店ヲ東京ニ
 置キ各府縣ノ要地ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行トコルレス
 ボンダンスヲ締約スルニアリテ本條例中ニアツテ尤モ緊要ノモノ
 ナリ然ルニ其支店出張所等ヲ設置スルニ際シ或ハ難事ニ屬スルモ
 ノアラシ何トナレハ本銀行ノ總裁ハ勅任ニシテ副總裁ハ奏任タリ
 加ルニ全株高ノ半額ハ政府ノ負擔ニ係リ且ツ漸ヲ追テ兌換銀行券

ヲ發スト云斯克位置ノ尊ク責任ノ大ナル本銀行トコルレスボンダ
 ンスヲ締約スル銀行ハ世ノ信用ヲ固フスルハ素ヨリ論ナカルヘシ
 ト雖モ現時ノ銀行其數二百有餘ニシテ其金額ハ殆ント三千餘萬圓
 此中第一銀行第十五銀行ヲ除カハ金數ハ姑ク置キ株金ヲ以テスル
 ニ士族公債證書ノ資本ニ係ルモノ其半ニ居レリ夫レ士族ハ廢藩後
 世祿ヲ以テ公債證書ニ換ヘタルモノナレハ多クハ之ニ依テ生活セ
 リ今是等大小ノ銀行ニ論ナク悉クコルレスボンダンスヲ締約スル
 モノトセハ彼ニ於テ不滿ナカルヘキモ是レ決シテ成シ能ハサル事
 ナルヘシ蓋シ其締約スルヲ得ルト得サルトハ自ヲ利益ノ有無ニ關
 スルモノナルヲ以テ其利益少ナキモノハ締約スル能ハサルヤ自然
 ノ理勢ナリ此ノ如キハ物議紛々弊害必ス生セン是レ該條ニ考慮ヲ

煩ヲハス所以ナリ然ルニ過日大藏卿ニ之ヲ敲クニ云ク各府縣下
 ノ銀行ト締約シ其宜シキヲ制セント本官此言ヲ聞キ安意セサルニ
 アラサルモ其關係スル處極メテ廣濶ナルヲ以テ特ニ此一言ヲ爲シ
 第二讀會ニ至レハ或ハ修正ヲ要スルヲ以テ豫メ質問ヲ爲ントス夫
 レ第二條ニ「コルレスボンダンス」トアルハ通語ナルヘキモ法律ニ
 此語ヲ用フルハ今ヲ以テ始メトナスニ拘ハラス其コルレスボンダ
 ンスヲ締約スルモノト第十條ノ「豫テ取引約定アル諸會社銀行云
 々」トアルハ其精神同シキカ如シ或ハ別種ノモノナルカ請フ辨明セ
 ヲ又第七條ニ「資本金總額五分ノ一即チ貳百萬圓ノ入金アル時ハ營
 業ヲ開始スルヲ得ヘシ」トアリテ其資本金一千萬圓ニ及ハサルモ現
 ニ二百萬圓ニ至レハ營業ヲ始ムルコトヲ示スナルヘキニ第八條ニ

「營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ内幾分ヲ減少シタル時ハ其事由ヲ審明シ資本入金殘額ヨリ其闕額ニ充ル迄ノ金額ヲ追募スヘシ」トアリ是レ二百萬圓ノ内ニ不足ヲ生セハ先ツ其不足ヲ追募スルノ意ナリ然ラハ則チ資本金ノ名ハ一千萬圓ナルモ其實ハ二百萬圓ノ銀行ナルカ如シ如何又第十條第二項ニ「地金銀云々」第三項ニ「金銀貨或ハ金銀塊云々」第五項ニ「金銀貨貴金屬云々」トアリ或ハ地金銀ト云ヒ金銀塊ト云ヒ又ハ貴金屬ト云フ是レ其類ノ別アルヲ以テ其指稱ヲ異ニセンカ其審カナルヲ聞ントス第五項ノ保護預リ云々ハ從來ハ其預カルニ相當ノ利子ヲ與ルノ習慣ナルカ如シ然レトモ此五項ノ場合ハ銀行ヲ信用シテ預ケルモノナルヲ以テ啻ニ無利息ノミナラス却テ預ケ主ヨリ手當ヲ出サシムルモノトスルカ第

十一條ニ「日本銀行云々諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ得ストアリテ同條ノ三項ニ「諸工業會社云々」トアリ營業トハ汎域ノモノニシテ商業モ工業モ包括スヘシ特ニ別載セシハ何等ノ理由アツテ然ルヤ又第二十三條ニ「政府ハ銀行諸般ノ云々」銀行ノ上ニ日本ノ二字ナシ第二十條ニハ「大藏卿ハ特ニ監理官ヲ日本銀行ニ派出シテ云々」ト日本ノ字アリ同様ノ場合ニ於テ一ハ之レアリ一ハ無シ二十三條ハ誤脱ニ係ルモノカ將タ別ニ意アツテ然ルカ以上ノ辨明ヲ乞フ

○加藤番二番

外 卅一番ノ質疑ニ答ヘン第二條ニアルコルレスボンダ

ンスヲ締約スルコトヲ得」ト第十條第四項ノ「豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ云々」トアルノ區別ヲ說ンニコルレスボンダンスヲ爲スハ即チ支店ノ資格ヲ有スル者ヲ云フナリ今若シ各地

ニ本銀行支店ヲ置ク時ハ身自ラ其營業ヲ爲スモノナルヲ以テ或ハ
 恐ル其地普通銀行ノ營業ニ妨ケアラシコトヲ故ニ先ツ支店ノ資格
 アルモノトシテ締約スルニアルナリ第十條第四項ノ取引約定云々
 ハ即チ諸會社銀行ニ論ナク一已ノ商人ヲ問ハス豫テ約定アルモノ
 ト日々手形金ノ取立ニ從事スルヲ云フナリ論者ハコレスボンダ
 シスヲ置ケハ乃チ其締約ノ一銀行ヲ利シテ其反動ヲ他ニ及ホスノ
 恐レアリト云フカ如シ之レ決シテ然カラス何トナレハ其一銀行ノ
 爲メ他ノ銀行ハ割引貸付等ノ便ヲ得ルヲ以テ却テ銀行ノ銀行タル
 實力ヲ養フノ援助トナルナリ畢竟本銀行ハ一般ノ銀行ヲシテ理財
 ノ運轉ヲ能セシムルノ精神ナレハ之レヲ銀行ノ銀行ト云テ可ナラ
 シカ第七條ニ二百萬圓ノ入金アル時ハ營業ヲ開始スヘシトアルモ

素ヨリ此ニ止ルニアラス乃チ一千萬圓ニ至ラシムルノ本意ナリ然
 レトモ其金額四分ノ一若クハ三分ノ一ニテモ開業ヲ始ムルヲ得ヘ
 シト云フノ意ニテ本銀行ノ株式一株貳百圓トシ總額五分ノ一即チ
 二百萬圓入金アレハ先ツ開始スルヲ云ナリ例ヘハ茲ニ一時ニ其半
 額ヲ要セントスルカ金額ハ許多ナルモ創業ノ際運轉宜シキヲ得ス
 シテ利用ヲ闕ク事ナシトスヘカラス而シテ其損失ハ株主ニアラス
 シハ果シテ誰ニカ歸ス故ニ其遊金ナカラシメ以テ漸次目的ヲ達セ
 シカ爲メ先ツ初メ二百萬圓ヲ以テ開始セシムルモノナリ此ノ如ク
 シハ或ハ金額僅少ノ看ヲ做スヘキモ其一千萬圓ニ對スレハ必ス然
 ルモ新ニ二百萬圓ノ銀行ヲ設立スルハ容易ノ業ニアラサルヘシ第
 十條ノ地金銀トハ譬ヘハ金瓶ナリ其他ノ金器ナリ其形全存セス只

地金ノミノ價アル者ヲ云ヒ金銀塊トハ鑛山ヨリ分析シ來ル者ナリ
 但シ外國ニテハ鑛山ヨリ出テ更ニ造幣局ノ勘査ヲ經其品位ヲ得サ
 レハ價ヲ爲サ、ルヲ例トス故ニ金銀塊トハ未タ其品定ナキ以前ノ
 モノヲ云フナリ且ツ貴金屬ノ字ハ物ニ對スルニ或ハ足ラサル所ア
 ラシカ蓋シ貴金屬中ニハプラチナノ類モ含有スヘシト雖モ此ニハ
 只其金銀細工物即チ天然ノ價アル上ニ細工費用ヲ加ヘタルモノヲ
 云フノ意ナリ第五項ノ諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨等ノ保護預リ
 ヲ爲スニハ別ニ約束内規ヲ作ラントス其利息ヲ付ルト然ラサルト
 ハ其土地ノ景狀ニ依リ又ハ期限ノ長短ニモ依ルナルヘシ其利息ノ
 有無ハ此ニ豫陳シ艱シ第十一條ノ諸般ノ營業ト第三項ノ諸工業ト
 ノ別ヲ云ンニ工業中其大ナルモノハ多クハ土功ニ係ル工事ノ營業

ナリ若シ本銀行ニシテ此工業會社等ニ關スル如キハ返金期限ヲ長
 クセサルヲ得ス然ルニ本銀行ハ究メテ期限ヲ短クシテ專ラ理財ノ
 運轉ヲ主トシ金融疏通ヲ助ルノ精神ニアレハ今此精神ニ反スルノ
 事業ハ特載シテ之ヲ禁止セサルヘカラス但シ本銀行ノ爲スヲ得ヘ
 キ事項ハ掲テ第十條ニアリ此他ハ關涉スルコトヲ得サルナリ其營
 業トハ都テノ營業ヲ指稱セシノミ又二十三條ニ政府ハノ下「銀行ノ
 上」ニ日本ノ二字ヲ加ルト云フハ之ヲ加ルモ敢テ支障ナキナリ

○十二番 渡邊

本案ヲ贊成ス其趣旨ハ各位ノ陳述ニテ明カナリ此銀
 行ニシテ成立セハ金融ノ梗塞ヲ開キ運轉ヲ利シ終ニハ外國ト取引
 ノ便ヲ爲スニ至ラン又之ニ因リ大藏省ノ都合ヲ能クスヘシ蓋シ今
 日衆多ノ銀行ハ各其一方ニ割據シ自守以テ足レリトシ更ニ有無相

通シ緩急相助ルノ大利アルヲ見ス例ハ是レ封建銀行ト云ハシノ
 ミ故ニ各地方税納期日ニ至レハ其金融ノ切迫ナル實ニ意想ノ外ニ
 出ツ本官嘗テ職ニ地方官ニ在リシ日痛ク苦心セシコトアリキ是等
 ノ困難ヲ救治スルノ方便ハ最モ本銀行設立ニ如クハナキナリ茲ニ
 内閣委員ニ質疑シ且ツ自己ノ見ヲ陳ント欲スルモノアリ其一ハ本
 布告案ニ「日本銀行條例左ノ通制定ス」トアルヲ以テ今其解釋ヲ爲
 スニ或ハ日本ノ各銀行ヲ指スモノカトノ疑ヲ生シ普通一般ノ銀行
 ニ對スル條例トナスノ誤リナキヲ保ツ能ハス故ニ本官ハ日本銀行
 ヲ創定スル爲メト云フカ如キ數字ヲ添加シ日本銀行ハ其名號タル
 形容ヲ示サントス其二ハ第二條ニ「日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘ
 シ云々」トアリテ、コレレスボンダンスヲ締約スルハ今現ニ取り行フ

所タルニモ拘ラス其區域ヲ廣メ全國ニ手形割引ヲ普行スルニアレ
 ハ東京本店ノミニテハ用ヲ爲シ難キヲ以テ全國ニ五六箇所ノ支店
 ヲ置カサルヲ得サルヘシト信ス何トナレハ第十三條ニ兌換銀行券
 ヲ發スルノ權アリ是レ支店ニアラサレハ用辨ニ堪ル能ハサル所以
 ナリ然ルニ前日大藏卿ノ言ヲ聞クニ大抵一地方ニ一箇所ヲ設クル
 ノ目的ナルカ如シ今第二條ノ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支
 店出張所ヲ設置シトアルヲ以テ見レハ首邑又ハ縣廳ノアル地ノ外
 尙ホ數所ニ之ヲ設置スルカ如ク兩者稍異同アルニ似タリ此事果シ
 テ何レニ從フノ意ナリヤ如何ン其三ハ第八條「營業上ニ於テ損失ヲ
 生シ云々」トアリテ株金追募ハ損失ノ時ノミニ止ルカ如シ但シ資本
 金貳百萬圓ニ至レハ先ツ開業スルノ目的タルハ内閣委員カ説明ニ

テ知レリ是レ漸ヲ以テ振興スルノ意ナルヘシ然ルニ説明書中ニハ
 「事業ノ伸張ニ由リ資本入金ノ増加ヲ要スル時ハ之ヲ資本入金殘額
 ヨリ追募スヘシ」ト事業ノ伸張ニ由テ株金ヲ追募スルノ項ヲ掲ク内
 閣委員モ亦既ニ追次株金ヲ増加セシメントストノ意ヲ述タリ然ラ
 ハ則チ此條ノ如キハ最モ必須ナルヘキニ今之ヲ削除シ去テ唯其損
 失ニ係ル追募ノミヲ掲ケタルハ如何ン其四ハ第十七條ニ總裁副總
 裁ノ任期ハ五ケ年トシ云々トアルノ趣意ハ未タ詳ニセスト雖モ本
 銀行ノ性質タル官民ノ間孰レカ勢力ヲ有スルヤト問ヘハ乃チ民間
 ニアラスシテ官ニアリト答ヘサルヘカラス故ニ其精神ヲ達セント
 欲セハ須ラク其人ヲ得ルニアリ之レ約スルニ五ケ年ノ任期ヲ以テ
 セシ所以ナルヘシ然レトモ人ニシテ過失ナキ能ハス又事故アリテ

退職ヲ乞フ時アラシク是等ハ其罷ムルノ名アルモ時トシテハ是非ニ
 拘ラス解任セシメサルヲ得サルノ事情ナキヲ保シ難シ斯ノ場合ニ
 於テ之カ處分ヲ爲スハ如何ン想フニ眞ニ其人ヲ得ハ再三任用スル
 固ヨリ可ナルヘケレハ寧ロ期限ヲ縮メ或ハ三年ヲ以テセハ可ナル
 カ如シ以上答辨ヲ乞フ

○番三番男谷
外三番忠友 十二番ノ質疑ニ答ヘン布告案ニ創定スル爲メトセサ

レハ總體ニ拘ルノ惑ヒアル可シト云フ此事タル已ニ參事院ノ會議
 ニ於テモ議論兩岐トナリシカ終ニ原案ニ決セリ蓋シ日本銀行ハ人
 民集合シテ成立スル資格ノモノナレハ其實大藏省之ヲ首唱シテ發
 起スルニモ拘ラス此條例ヲ發表セハ各地方ニ於テ其株主タラシク
 トヲ欲スルモノ相集リ合議ノ上大藏省ニ請願シ其許可ヲ得テ始メ

テ成ルナリ然ルニ創立スル爲メト掲クル時ハ政府之ヲ創立スルノ
 嫌ヒアリ是レ本銀行ノ資格ト支離スルトシテ其説ヲ取ラサル所以
 ナリ又第二條ノ首邑トハ各府縣ノ舊城市或ハ府縣廳アルノ地又ハ
 下之關港ノ如キ商業繁昌ノ地ヲ指スモノト見テ可ナラン之ニ支店
 或ハ出張所ヲ設置スル等皆其便宜ニ任ス前ニ大藏卿カ一地方ニ一
 ケ所ト云ヒシモ本案ハ目ヲ遠ク注キ後來ノ措置ヲモ圖リタルモノ
 ナルヲ以テ本銀行事業伸張シ一地方ニ一ノコレレスボンダンスニ
 テ足レリトセスシテ特ニ支店出張所ヲ設置スル日アルヘキヲ豫言
 セシナリ第八條ニ「云々」トアリテ説明書ニハ事業ノ伸張ニ由リ追
 募ノ事アリ其權衡如何ノ間ノ如キ向ニ參事院ノ會議ニ於テ該條ヲ
 削除セシ理由ハ最初二百萬圓ノ資本ニテ開業シ事業ノ伸張ニ隨ヒ

四百萬圓又ハ五百萬圓ト漸次豫期スル所ノ株金ヲ募集スルニアレ
 ハ特ニ之レヲ掲ケサルモ可ナリトセリ其第八條ノ損失云々ハ之ニ
 異ナリ例ヘハ此ニ二十萬圓ヲ損失センカ是レ全ク二百萬圓ノ内ニ
 十萬圓ヲ減殺シ資本金ハ百八十萬圓ニ下ルナリ此時ニ方リ新ニ株
 主ヲ募ンカ又能ハサルナリ乃チ只現在ノ株主ニ就キ追募補充スル
 ノ一方アルノミ是レ常ニナクシテ罕ニアルノ虞備ニ過キヌ又第十
 七條總裁任期ノ事ハ要スルニ理財上ノ目的ハ成功ヲ遠大ニ期スル
 ニアレハ總裁副總裁ニアツテハ五年乃至七年後ニ着意シテ事ヲ經
 營セサルヲ得ス且國庫金ヲ預リ運轉スルカ如キ要務モ尙ホ未タ實
 驗ヲ經ス彼ヲ視此ヲ思フニ期限ノ短少ハ銀行ノ不利ナルヲ知ルヲ
 以テ大リ若シ或ハ二年三年ト期限ヲ減縮スルモ己ヲ得サルニ罷免

スルハ其揆一ナリ何ソ期限長短ノ關スル所ナランヤ
 ○十九番大給 本官モ日本銀行ノ設立ハ今日理財ノ必用ナルヲ認ル
 ヲ以テ大體上ハ之ヲ可トス唯過日闕席セシカ爲メ大藏卿ノ陳辨ヲ
 聞クヲ得サリシヲ以テ今内閣委員ニ就キ一言ノ質スヘキモノアリ
 夫レ本行ハ他ノ一般ノ銀行ト其組織ヲ異ニシ株金モ政府ノ負擔ス
 ルモノ其半ニアリト雖モ營業上ヨリ看過セハ共ニ之レ商法銀行ノ
 ミ而シテ之レニ總裁ヲ置ク其選優遇特典ノ此ニ至ルハ從來ノ習慣
 ヨリ之レヲ觀レハ稍耳目ヲシテ其新規ナルニ驚愕セシムルカ如シ
 退テ説明書ヲ一閱スレハ外國ニテハ中央銀行ノ如キ皆勅任總裁ヲ
 置クトアリ外國ノ事ハ聞クヲ得タリ我國ニ在テ勅奏任ハ官員中位
 地嚴然トシテ重キモノナリ今總裁副總裁ヲ待ツ此ニ至ルハ蓋シ外

國ニ對等スルノ權衡ニ依テ然ルカ我同朋三千萬人ノ信用ヲ買フニ
 止マラサルヘシ從來多クノ銀行中ニハ信用ヲ缺クモノナキニアラ
 ス是レ畢竟不規則ナルヲ以テノ故ナラン普通銀行ト雖モ其首領ノ
 任授ハ鄭重ニスヘキモノナルヲ信ス特ニ本銀行ノミニアラサルヘ
 シ蓋シ勅任ハ聖慮ニ出テ顯貴ナリ此名器ヲ以テ本銀行ニ付スルモ
 ノハ外國ト爲替取引ヲ爲シ其信用ヲ固フスルニハ斯克セサルヲ得
 サルノ故ナルカ或ハ人民ノ尊崇ヲ求メ信憑ヲ得ンカ爲メナルカ將
 タ銀行ノ多キ中ニ立チ斬然頭角ヲ露ハサシメントスルニアルカ抑
 モ現在金融便利ノ爲メナルカ將又向來理財上ノ算畫ニ出ルカ思フ
 ニ事鄭重ニ過ルカ如シ望ラクハ其詳カナルヲ聞ン
 ○番二番加藤 十九番ノ問ニ答ヘン十七條總裁副總裁ヲ勅奏任トセ

○ラ、理由ハ載セテ説明書ニ明カナリ抑モ政府ヨリ付スルニ此ノ特典ト此ノ位地ヲ以テ保護スルニアラサレハ不可ナルハ獨リ中外ニ對シ信憑ヲ得ルノ謂ノミニアラス英佛獨ノ諸國皆然カラサルナシ其人民唱フル處ヲ聞クニ政府銀行又ハ中央銀行ト云フ帝國若クハ王國ナレハ其勅ニ成リ共和國ハ大統領ノ親選ニ係ル是レ自國ニ在ルモ他國ニ對スルモ此ノ如クナラサレハ其銀行タル體面ヲ存スル能ハス且ツ本銀行ノ如キ殆ント一省ヲ設ルニ等シク衆多ノ役員ヲ進退指揮シ莫大ノ金銀出入ヲ掌リ理財調護ノ責メアリ其職任ノ重キ此ノ如シ是レ外國ノ制ニ倣ヒ內國ノ事狀ヲ察シ認メテ適當ナリトシテ疑ハサル所ナリ

○十九番 大給 恒 答辨ヲ得テ一應領會セシモ仍ホ一步ヲ進メ之カ手續

ノ詳ナルヲ聞ン本銀行ノ株主ハ政府ト人民ナリ政府ヨリ多クノ株金ヲ出スモ其成立ハ人民ニ起レリ然ルニ其總裁勅任トアレハ固ヨリ特選ニ係ルナルヘシ然ルニ此一事ニ於テハ株主タルモノ一言之レニ及スヲ得ストスレハ或ハ人民ノ權利ニ拘ルナキヲ得ス外國ニテ此例アリト云フ其手續ハ如何スルヤ或ハ株主ヨリ幾人ヲ推薦シ其内ニ就テ特選ヲ請フ等ノ事ナキヤ然ラスンハ株主ニ對シ重大ナル責ヲ負フ總裁ニシテ權利者タル株主ハ毫モ痛痒相關セサルカ如シ豈此間ニ疑ヒナキヲ得ンヤ

○番三番 男谷 忠友 十九番ヨリ總裁勅選ニ係ル間アリ其意ヲ推スニ株主カ選舉セサルヲ以テ權利者安心シ難キ場合アラシ他ノ銀行ハ都テ株主ノ選舉スルモ此銀行ノ總裁ハ然ラサルハ株主權利ノ幾分ヲ

損スト云フカ如シ元來日本銀行ハ政府ニテ其株金ノ半ヲ擔ヒ加ルニ政府ヨリ國庫出納ノ任ヲ受ルニ至テハ大藏省現金取扱事務ノ五六分ヲ割與スルニアレハ其責任ノ重キノミナラス乃チ政府密接ノ關係ヲ有ス一般ノ銀行ハ株主株金ノ多寡ニ依リ選定スルヲ以テ其選ニ當ルモ眞ニ其人ニシテ其任ニ勝ユルヤ否ヤ必シ難キノ實アリ外國中央銀行ノ皆勅選ナルハ國內又ハ外國ニ對シ信憑ヲ鞏固ナラシムルニアリテ之ヲ單ニ株主ノ選舉ニ放任セハ政府力銳意シテ達セント欲スル目的モ中途ニシテ廢殘スル無キヲ保セス故ニ總裁ヲ勅任トスルハ遠クハ中外一般ノ信用ヲ固フシ近クハ銀行株主ノ保任ヲ敦フシ此ノ如ク任重クシテ始メテ國庫ノ取扱ヲ爲スヘク既ニ國庫出納ニ與カルヲ得人民ノ銀行ヲ信據スルノ念益々厚キヲ加ル

ヲ知ルヘシ是レ本銀行組織上尤モ緊要ト云フヘキナリ

○廿三番 其作 購祥

本案ニハ説明書創立ノ議定欸等ヲ附シ加ルニ大藏卿

詳細ノ陳述アリ是ヲ以テ條數少ナキニアラス事件輕キニアラスト雖モ事理極メテ明白ニスルヲ得タリ此ノ如ク完備セル法案ハ近頃稀ニ見ル者ト稱シテ可ナリ故ニ大體上本案ニ同意ス惟フニ各位ニアツテモ是認セラル、ナラン抑各國ノ事蹟ヲ案スルニ米國ハ嘗テ南北戰爭アリ此時ニ於テステートバンクヲ立テ其地方流通ノ銀行券ヲ發セシメ一時ノ急ヲ救ヒシモ正貨ト許多ノ差ヲ生シ之レカ爲メ理財上甚シキ困厄ヲ究メシモ爾來當路其人アツテ漸ク昔時ノ隆運ニ回復セリ我國々立銀行設置ノ方タル多クハ米國ニ倣ヒシナラシ而シテ各銀行ヲシテ若干ノ銀行券ヲ發セシメシハ當時見ル所ア

ツテ然カリシナラン然レトモ到底得策ニアラサルヘシ如カス英佛銀行ニ比擬シ一ノ大銀行ヲ立テ全國ニアル銀行モ追々其支店トシ漸ヲ以テ兌換銀行券ヲ發行シ終ニ政府發行ノ不換紙幣ノ迹ヲ絶ツニ至ラシメハ歐米各國ト其迹異ナルコトナシ此目的ヲ達センニハ本銀行ノ設置ハ最モ肝要ナリトス然リ而シテ本銀行ノ業務ハ手形割引ヲ主トスル如シ歐洲經濟家ノ説ニ銀行ハ銀行券發行ヲ第一トシ手形割引ヲ第二トスト云フ此割引タル佛國銀行等ニハ若干ノ特權ヲ有スルモ我國ハ未タ商法ノ制定ナキヲ以テ割引ノ事ニ付キ紛議萌生シ其曲直ヲ裁判所ニ訴フル時ニ於テハ其處分甚タ困難ナルヘシト思ヒシニ内閣委員ノ言ニ依レハ手形條例ヲモ發行シテ之ニ應スト云此ノ如クシハ爲替取扱ノ事柄モ自カラ緒ニ就ク可キヲ信

ス故ニ其議案ノ速ニ下付アラシムコトヲ欲スルナリ尙ホ二三ノ質問アリ第十條ニ「日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ」トシテ六項ヲ列子テ區域ヲ明ニシ第十一條ニハ「日本銀行ハ第十條ニ記載スル事業ノ外左ニ掲ル件々ハ勿論其他諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ得ス」トシテ其反對ヲ示セリ但シ第十條ノ六項ニ「公債証書其他政府ノ保証ニ係ル各種ノ証券ヲ抵當トシテ云々」トアルハ是レ其營業ニ屬スルノ方ナリ然ルニ其保証ニ係ルノ証券トハ何ヲ云フヤ今日之レ無キモ將來ニ有ルヘシトスルモノヲ云フカ其反對タル裏面ノ第十一條第一項ニ「不動産及ヒ銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事」トアリ是レ其禁止ノ方ナリ既ニ不動産トアレハ地券ヲモ抵當ニ取ルコト能ハス他ノ銀行株券モ亦然リ然ルニ此等ハ政府保証ニ係ル

ノ限ニアラストナスカ此兩般ノ權衡ト許否區別ノ詳カナルヲ聞カ
 ントス又廿一條ニ對シ某議官ノ質問ニ内閣委員ノ答辨アリシカ其
 條ノ「日本銀行ハ本支店出張所及約定店等」云々トアルハ第二條
 ノ「コレレスポندانズ」ニアラサルモ第十條第四項ト異ナルコト
 ナキカ如シ是レ果シテ如何ン又別ニ一言セン内閣委員ハ某議官ノ
 質疑ニ答テ貴金屬ハ天然價アルモノニシテ細工ノ價直ヲ加ヘシモ
 ノヲ云フトアリ本官ハ是レ「プレシヤル、メタール」ノ語ニ適シ即チ
 金銀プラチナ等ニシテ銅鉛等ニアラサルモノトシ又細工アルモノ
 ト云フニアラサルヘシト信ス之レ質問外ニ屬スルモ聊カ併陳スル
 所ナリ

○外二番加藤

廿三番ノ質問セル第十條第六項ノ政府ノ保證ニ係ル

證券ト第十一條第一項云々ノ區別ヲ述シ前ノ證券ト云ハ目下數種
 アルニアラスト雖モ終ニハ出納局仕拂ノ手形モアルヘク又會社ニ
 就テ云ヘハ特別保護ヲ付與セラル、鉄道株券等モアラン蓋シ實際
 ノ便宜ニ從ヒ貸與スルヲ必トセサルモノナリ又大藏省諸仕拂モ商
 業便利ノ爲メ手形切手ヲ以テセラル、ニ至ルヘシ是皆政府保證ニ
 係ルモノナリ第十一條第一項ノ如キ不動産中地券ノ如キハ一定ノ
 制度アルモ時ニ隨ヒ處ニ依リ地價ノ高低ナキ能ハス況ンヤ家屋ノ
 如キ定價ナキモノニ於テヲヤ其他銀行諸會社株券モ亦然リ其盛衰
 ニ因リ價直ノ昇降ナキ能ハス是レ本銀行ノ取ラサル所ニシテ第十
 條第十一條ノ表裏ヲ區別スル所以ナリ又第廿一條ノ「日本銀行ハ本
 支店出張所及約定店等」云々トアルハ或ハ第二條ノ「コレレスポ

ンダンス」ヲ譯シ來ルノ看ヲ爲スモ固ヨリ怪ムニ足ラスト雖モ本條ハ獨リコルレスボンダンスノミノ謂ニアラス一商人ト雖モ別段ノ約定アツテ取引スルモノヲ包括スルナリ又第十條ノ貴金屬ノ說其當ヲ得タリ即チ「メト―プレシウ―」ノ譯字ニシテアラチナ金剛石ノ類モ包含スルモ我國ハ未タ評價人ニ乏シク金瓶ニテモ破損セハ地金トナルノ類多シ外國ニテハ貴金屬ノ價アルモノハ銀行ニ預リ局アツテ相當ノ預リヲ爲ス此金屬ノ本性質ハ廿三番說ノ如シト雖モ直ニ之ヲ用ヒ難キヲ以テ前陳ノ如ク説明セシナリ

○三十一番柴原和 本官ハ簡單ニ今一應質問セントス第五條ニ日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ云々トアリ幾分ノ株金ヲ入ルレハ皆納セサルモ株券ヲ渡スニアルカ或ハ假券ヲ以テスルカ株券渡シ方

ノ手續ヲ聞ン又第十條第五項諸預リ勘定ヲナシ云々ノ事ヲ問ヒシニ利ヲ付スルノ有無ハ豫期シ難シト云ヘハ時アリテ預ルニ利ヲ付スコトモアラシ同條第六項ニ云々但其金額及利子ノ割合云々大藏卿ノ許可ヲ受クヘシトアルハ各種ノ證券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス利子ノ割合ハ總裁以下協議シ大藏卿ノ許可ヲ受ルニアリテ利子ノコトヲ明記セシニ第五項ニ此文意ナシ大藏卿ノ許可ヲ受ケサルモ之ヲ爲スヲ得ルカ

○番二番加藤外二番濟 第五條記名券ノ問アリ外國ニテハ株券トシテ發行セサルモノアリ我國ノ慣習ハ銘々分與スルノ例ナレハ其例ニ倣ヒ其株帳ニ原籍姓名ヲ記シ渡方ノ手續ヲ爲スノ見込ナリ但シ一株二百圓皆納セサル間ハ假券ヲ以テスルナリ第十條第五項ノ如キハ當座

ト定期トアリ之カ利足ヲ拂フ割合ハ其都度大藏卿ノ許可ヲ經ヘキナリ公債證書抵當利子ノ割合等大藏卿ノ許可ヲ受ルハ畢竟一般ノ利息ヲ遞減スルノ目的アレハナリ夫レ財源ヲ深フシ金力ヲ充分ニ養フ時ハ利子ノ如キ自由ニ減殺スルヲ得ヘシ現ニ英國ハ二分半ヨリ三分半ニ止リ此間ヲ昇降スルヲ常トス佛國亦然リ之レ他策アルニアラス大銀行アリ資力强盛運轉自在ナルカ故ナリ惜哉我國ノ現況タル實貨地ヲ拂ヒ紙幣ト雖モ今時ノ現象ニ至ル之ヲ回復スルハ實ニ容易ノ業ニアラス本銀行ハ英佛中央銀行ト同性質ノモノナリト雖モ如何セン一跳此佳域ニ達シ難キヲ故ニ先ツ希望ノ屬スル所ヲ定メ今日ノ紙幣ハ紙幣ニシテ其用ヲ成シ漸ヲ以テ改良シ終ニ貨幣ト交換シテ局ヲ結ントス

○三十一番 柴原和

答辨ヲ得テ解セリ然ルニ定款第十二條中ニ猶入金セサルトキハ其株券ヲ賣拂ヒ云々トアリ番外二番ノ答辨ニテハ最初幾十圓出セハ其假券ヲ渡スト云フ即チ定款ニアル株券ト云フニ異ナルカ如シ各銀行共ニ二箇月或ハ一箇年幾回ト期ヲ定メテ入金シ皆納ノ後株券ヲ渡スハ通例ノ如シ然ルニ本案第八條營業上ニ於テ損失ヲ生シ追募スルヤ又ハ定款第十一條事業ノ伸張ニ由リ追募スル等皆是レ貳百圓ニ充タサル間ニアル假券ナリ然ルニ定款第十二條中其株券ヲ賣拂ヒ其代金ヨリ云々トアルハ何ノ意ソヤ

○加藤 外二番 濟

第五條ニアル株券ハ二十圓乃至四十圓ノ割合ニテ入金スル間ハ假株券ヲ以テスト云ヒシニ然ラハ賣買スル事能ハスト云ヘリ到底何レノ銀行ニテモ割引ニテ加入シ假株券ヲ與ルヲ以テ

普通トセリ此券ハ假券ト雖モ粗畧ノモノニアラス只貳百圓ノ總高
記入ナキ爲メ假トスルニ過キサルナリ

○九番津田
眞道

本官モ大意ヲ可トス滿場ノ各位モ共ニ異議ナカルヘキ
ヲ信ス夫レ本案ノ目的タルヤ低利貸付ヲ爲シテ金融ノ梗塞ヲ開キ
紙幣ノ低落ヲ救フテ交換紙幣ト爲シ終ニ輸出入ノ不平均ヲ復シ我
國家ヲシテ殷富ナラシムルニアレハナリ加フルニ此議案ニハ附ス
ルニ大藏卿ノ建議書アリ説明書アリ内閣委員モ三人ノ多キヲ以テ
辨明ニ從事スルアリ實ニ丁寧反覆盡セシモノニシテ本官等ノ満足
スル所ナリ已ニ此ノ如クシハ説明ヲ要セサルニ似タレ氏尙ホ一事
ノ質問アリ抑モ此銀行ハ資本金ヲ一千萬圓ト定メ半額ヲ國庫ヨリ
出スト云フ前會十八番ハ意ハ賛成スルニアルモ株金募集ニ應スル

モノナキヤヲ顧慮セラレシカ内閣委員ハ敢テ介意スルニ足ラスト
云ヘリ本官モ亦然リトス我國ヲシテ富貴ナラシムル財源ヲ作興ス
ルニアレハ苟モ事理ヲ解スルモノニシテ誰カ其募ニ應スルヲ好マ
サラシヤ期月ニシテ忽チ五百萬圓ニ充ツヘキヲ信ス唯本官ノ顧慮
スル所ハ人民ノ募ニ應スルヤ否ヤニアラスシテ却テ政府ニアリ今
ヤ人民募ニ應シテ其半額ヲ出スニ方リ政府豈之カ半額ヲ出サスシ
テ可ナランヤ蓋シ五百萬圓ハ巨額ナリ本官素ヨリ財政ニ關スルモ
ノニアラスト雖モ曩ニ大藏卿カ上申ニ係ル豫算表ヲ閱スルモ敢テ
五百萬圓ノ餘裕アルヲ見ス故ニ如何シテ之ヲ出スヲ得ルヤト憂テ
止マス幸ニ明解ヲ得テ之ヲ消散セントス或ハ一時ニ調理ノ難キヲ
以テ募金若干萬圓入金アレハ開業スルニ依リ先ツ政府ハ一百萬圓

ヲ準備シ之ニ充ルニアルカ一應ノ答辨ヲ乞フ

○外三番男谷忠友

九番ヨリ政府資本金ヲ出スニ付テノ間アリ抑モ本銀行ノ目的ハ一千萬圓ノ資本金ト定ムルモ始メハ二百萬圓ニテ開業シ其半額ハ國庫ヨリ之ヲ出シ事業ノ伸張ニ從ヒ更ニ百萬圓ノ増募ヲ要スレハ是又政府人民ヨリ其半額宛ヲ出スニアリテ當初一時ニ五百萬圓ヲ募集スルニアラス而シテ其金ハ定用金ヲ以テスルカ或ハ準備金ヲ以テスルカ固ヨリ大藏卿ノ胸算ニアルアラン決シテ咄嗟ニ五百萬圓ヲ辨出スルノ意ニアラサルナリ

○廿五番東久世通勝

本案ハ説明書モ附加アリテ其理由モ畧了解スト雖モ爰ニ特別ノ建議アリ本案ハ大趣意ニ於テ異論ナキモ條數殊ニ多ク隨テ修正説モ多岐ナルヲ以テ望ラクハ第一讀會ノ畢リニ於テ例

ニ依リ全部付託修正委員ヲ置ンコトヲ

○外三番男谷忠友

既ニ大體ノ可否ヲ取決セラル、時機ナルヲ知ル願クハ大體ヲ可トセハ直ニ第二讀會ヲ開カレンコトヲ本案ノ特ニ急施ヲ要スル理由ハ向ニ大藏卿陳述ノ如クナレハナリ

○議長 發議已ニ盡キタリト認ルヲ以テ第一讀會ハ茲ニ了ル

○議長 廿五番ヨリ全部付託修正委員ヲ置クノ建議アリ且ツ内閣委員ヨリ大體可ト決セハ直ニ第二讀會ヲ開カンコトヲ請求セリ此法案ノ要急ナルハ各位ノ知ル所ナルヲ以テ縱令廿五番ノ建議行ハレ委員ヲ置クニ決スルモ時日猶豫成リ難キモノトス即チ廿五番ノ建議ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者六人

○議長 少數ナルヲ以テ廿五番ノ建議ハ消滅ス

○卅一番柴原和 建議ス太政大臣ヨリ別段ノ達シアリ至急ヲ要セラレ

、意ヲ領スルヲ以テ午後引續キ第二讀會乃至三讀會迄モ議了シ内閣要急ノ主意ニ應セン

○十八番九鬼隆一 賛成

○議長 今日午後ニセサレハ必ス明日ハ引續キ開會セント欲セシニ卅一番特別ノ建議アルヲ以テ決ヲ取ラン本日午後直ニ二讀會ヲ開クノ建議ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十六人

○議長 多數ナルニ依リ本日午後第二讀會ヲ開クヘシ休息ノ爲メ暫時散會セヨ

午後零時第五十分閉場

午後第二時十分開場

退席 卅五番 鍋島 直大

○議長 午前第一讀會ヲ了リタル第三百三十號議案ノ第二讀會ヲ開

ク例ニ依リ發議スヘシ

書記官森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

布告案

日本銀行條例左ノ通制定ス

○二番神田孝平 本官ハ此案ニ對シ文字ノ修正アリ單ニ日本銀行條例トノミ云フ時ハ全國內ノ銀行ヲ總稱スルヤノ嫌ヒアルヲ以テ日本ト

銀行トノ字間ニ中央ノ二字ヲ插ミ日本中央銀行條例ニ作ラントス

○卅二番 鍋島 贊成

○卅一番 柴原 和 二番ノ修正説ハ中央ノ二字ヲ加ヘントスルニアリ然

レハ其二字ヲ挿入スルハ單ニ此ニ止マラス第一條以下日本銀行ト
アル箇所ハ悉ク然カセント欲スルカ

○二番 神田 孝平 然リ本案中日本銀行ノ文字アル所ハ均シク中央ノ二字

ヲ加ヘントスルナリ

○議長 二番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○外二番 加藤 濟 日本銀行トハ固有名詞ト成リ難キヲ以テ日本中央銀

行ニ作ラントスルノ修正説問題ト爲リタルニ依リ聊カ原案ノ如キ
名稱ヲ付セシ旨趣ヲ述シ蓋シ説明書中ニ中央ノ字アルハ只是レ意

義ヲ解スルカ爲メナルニ過ス畢竟中央銀行ト云ハ他ノ銀行ヨリ己

レヲ子ノ如クシ本銀行ヲ待ツニ父視スルノ稱ニシテ各國共ニ或ハ

「バンク・オブ・サントラー」ト云ヒ或ハ政府銀行ト呼フモ該銀行自ラ

稱スル時ハ即チ「バンク・オブ・エングランド」「バンク・ド・フランス」ト

云フカ如キ皆是レ固有名詞ナリ故ニ日本銀行ト名クルモ敢テ日本

一般ノ銀行ト云フノ嫌ナキヤ明カナリ今日他ノ銀行ハ數字番號ヲ

以テ之ニ名クルモ斯ノ大銀行ニ國名ヲ冠ラシ日本銀行ト稱スルハ

決シテ其當ヲ得サルモノトスヘカラス命名ノ意已ニ此ノ如シ此ニ

中央ノ字ヲ加フル時ハ或ハ各國ヘ對スルモ不可ナラン

○卅三番 渡邊 洪基 原案ヲ可トス若シ日本中央銀行トスル時ハ國立銀行

中ノ中央ニアルモノト云フノ意味ニ偏スルノ恐レアリ抑モ本銀行

ハ本ト獨立ノモノニシテ固ヨリ他ト名稱ヲ混同スヘカラス假リニ之ヲ譬ヘンニ此ニ一銀行アリ名ケテ東京銀行ト云フモ誰カ之ヲ以テ東京ニアル都テノ銀行ナリトスルモノアラシヤ是レ英國銀行ト云テ英國中ノ銀行ヲ總稱スルニアラサルト同一理ナリ故ニ日本銀行ト稱スルハ適當ノ文字ニシテ毫モ疑ヲ容レサルナリ

○二番神田孝平 敢テ熱中スルニアラサルモ日本銀行ト云フ時ハ兩様ノ意味ヲ帶ヒ混シ易キヲ以テ強テ之ヲ固有名詞トセンヨリハ寧ロ中央ノ二字ヲ加フルノ穩當ナルニ如カストスルナリ或ハ云ク中央ト云ヘハ他ノ是レニ對スルモノナキ能ハスト本官ハ以テ然ラストナス究竟スルニ衆耳ニ熟セサルモノヲ避ケ平易ニ聞ユルモノヲ取ルニ過キス此ノ如クスレハ外國ヨリハ日本銀行ト稱シ我國内ニテハ

中央銀行ト呼フ之ヲ稱呼スルニ兩ナカラ便宜ナリト信スルナリ

○議長 發議盡キタリト認ルヲ以テ決ヲ取ランニ番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ二番ノ修正説ハ消滅シ他ニ發議ナクンハ本案ノ決ヲ取ラン之ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者廿一人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

○書記官森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

日本銀行條例

第一條

日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第二條

日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスポندگانス」ヲ締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスポندگانス」ヲ締約スル時ハ其事由ヲ大藏卿ニ具狀シテ其許可ヲ受ク

ヘシ又大藏卿ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスルトキハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

○卅三番 渡邊洪基 本條「コルレスポندگانス」トアルハ佛語ナレト其一般ニ通シ易キヲ欲セハ「コルレスポندگانス」ト英語ニ作ルニ如カス故ニ之ヲ修正セントス

○廿五番 東久世通禎 賛成

○議長 卅三番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○廿三番 箕作麟祥 卅三番ノ佛語ノ「コルレスポندگانス」ノダノ字ヲ英語ノデニ改メントノ問題ハ當然ノ説ナリト雖モ本官ハ別ニ修正説アルヲ以テ同意スルコト能ハス夫レ銀行ノ制タル原來外國ニ倣フモノナレハ止ヲ得ス「コルレスポندگانス」ト云フカ如キ原語ヲ用

フルモ法律ニ明掲スルハ實ニ此案ヲ以テ始メトス然ルニ本官ハ斯ク原語ヲ藉ラスシテ新ニ適當ノ文字ヲ譯出シ而シテ原語ノ傍註ヲ加フルニ如カストシ此ニ考案ヲ下スニ夫ノ香港上海等ニ於ル固ヨリ此事アリ故ニ公文ニ新聞ニ必ス其用ユル所ノ好字面ナキ能ハサルヲ以テ之ヲ彼ノ國俗ニ精熟セシ人ニ問ヒシニ多クハ合同ノ字ヲ用テ之カ譯ニ充ツ蓋シ合同トハ心ヲ同クシテ相合スルノ意ナリト云フ既ニ然レハ我モ亦姑ク此二字ヲ采リ加フルニ締約ノ文字ヲ以テシ以テ實語トセハ更ニ可ナランカ因テ之ヲ合同締約ト修正セントス願クハ此際唯佛語ヲ英語ニ改ムルニ止マルナカラシコトヲ仍ホ各位ニ於テ一層穩當ノ文字ヲ得テ提出スルニ會ハ、本官喜テ之ニ同意セン是レ本官ノ幸ノミニアラサルナリ

○卅一番 柴原和

現問題ニ對シ廿三番ハ別ニ意見ヲ述ヘテ「コレレスボ」ンダンス「ヲ合同締約ニ改メント云頗ル我カ心ヲ得タルノ說ナリ蓋シ本官既ニ之ヲ譯字ニ換用セント欲シ内閣委員ニ就テ原意ヲ質問セシニ取引約定ノ事項ヲ以テセリ然レトモ尙ホ未タ好文字ヲ得サルニ病メリ夫ノ原語「バンク」ノ如キモ「」ニ銀行ト譯セリ我法律ニシテ直ニ原語ヲ用フルノ例ハ多ク見サル所ナルヲ以テ現問題ハ消滅ニ歸シ廿三番ノ說ノ行ハレンコトヲ望ム

○卅三番 渡邊洪基

本條「コレレスボ」ンダンス「ノ英語ヲ用フルモ敢テ世用ニ障礙ナシトス其例証ヲ舉レハ近時本官漫遊中到處聞クニ慣ルノミナラス或ハ全語ヲ以テシ又ハ片言「コレレス」トモ云テ通用シ殆ト普通ノ語トナレリ且ツ新聞紙上ニモ屢々記載シ衆人毫モ怪シ

トセス之ヲ是レ察セスシテ妄ニ合同締約等ノ新奇ノ字面ヲ用ヒン
トスルハ啻ニ世人ヲシテ不審ヲ生セシムルノミナラス團結連合ノ
如ク或ハ合從連衡ノ意トセンモ知ルヘカラス是レ問題說ニ如カサ
ル所以ナリ

○二番 神田 孝平 本官モ問題ノ如ク「コルレスボンデンス」ノ語ヲ以テスル
ヲ然リトス若シ適當ノ譯字ヲ得ハ之ニ從フ可キハ論ナキモ合同ト
云ヒ締約ト云ヒ其實同義ナルヲ以テスルハ寧ロ合同營業トナスノ
少シク可ナルニ如カス然レトモ今敢テ此ノ如キ工夫ヲ用フルヲ要
セス問題ノ如クセハ足レリトス

○外二番 加藤 濟 「コルレスボンデンス」ノダヲデト改作セントスルノ
修正ハ不可ナカラシ回顧スレハ明治五六年ノ間第一銀行ヨリ漸次

號ヲ逐フテ創立セシ以來直ニ彼ノ語ヲ取テ使用セリ既ニ當時ニ在
テモ恰好ノ譯字ヲ求メサルニアラス或ハ通信トセンカ將タ互通ト
センカ未タ認メテ以テ適當トスルヲ得ス荏苒今ニ至リ百有餘ノ銀
行ニ於テ實際其事ヲ行ヒ又其語ヲ用ヒ毫モ便利ヲ害スルヲ見ス然
ルニ遽ニ之ヲ合同締約等ノ文字ニ更改セハ恐クハ實務ニ支障アラ
ン但シ該語ノ如キハ本是レ輸入ニ係ルモノナレハ其事ニ害ナクン
ハ姑ク慣用ニ倣ヒ原語ヲ存センコトヲ望ム

○廿三番 箕作 麟祥 本官ノ預陳セシ說ニ對シ未タ其問題トナルヲ俟ス反
對論ヲ與ヘラル、アリ又番外二番ノ如キ原案ヲ主持スヘキニ拘ラ
ス現問題ヲハ是認シ却テ本官ニ向テ駁撃ヲ試ミラル、アリ本官モ
合同締約ノ文字ヲ完全無疵ト誇稱スルニアラス假令英佛ノ語ナリ

ト雖モ用ヒ來テ實語トナリタル上ハ敢テ通用ニ苦シミ解釋ニ難ン
 スト云フニアラス但近來商家便利ノ稱呼ニ止ルモノヲ以テ今法律
 ニ明載セントスルノ時ナレハ之ヲ機會トシ至當ノ譯字ヲ得テ以テ
 永ク之ヲ用ヒシメハ更ニ不可ナシトスルノ意ナリ卅一番ノ言ノ如
 ク「バンク」ノ銀行ニ於ケル「レール」ノ鉄道ニ於ケル其他藥名等譯語
 ラ付スルモノ種々アリ是等ハ有形名詞ニテ明カナルモ無形名詞ハ
 然ラストセンカ夫ノ「ステーション」ヲ停車場ト云フ如キノアルア
 リ是ヲ以テ之ヲ推セハ「コレレスポندانズ」ヲ譯スルニ合同締約
 等ノ文字ヲ以テスルニ何ノ不可カ之有ラン

○卅三番 渡邊 洪基 「コレレスポندانズ」ハ元來羅旬語ニシテ獨リ英國
 ニ限ルニアラス日耳曼土耳其古ノ諸國ニ至ルマテ用ヒ來テ便トスル

普通ノ語ナリ今我國ニ於テモ之ヲ適用スル何ノ不可カアラン因テ
 前議ヲ主張ス

○議長 論議已ニ盡キタリト認ルヲ以テ決ヲ取ラン卅三番ノ修正說
 ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者六人

○議長 卅三番ノ修正說ハ少數ナルヲ以テ消滅ス

○廿三番 箕作 麟祥 卅三番ノ修正說消滅セシヲ以テ本官ハ前陳ノ如ク今

此ニ合同締約トスルノ修正說ヲ提出ス而シテ卅三番ノ云フ如クコ
 ルレスポندانズト云フノ原語ヲ傍註ニセントス

○卅一番 柴原 和 賛成

○議長 廿三番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○九番津田真道 賛成ス原語ヲ用フルモ通セサルニアラサレトモ相當ノ

譯字アレハ之ヲ用フルニ如カス即チ「ステーション」ヲ停車場ト云ヒ「エレキ」ヲ電氣ト云ヒ「ドル」ヲ洋銀ト云フ如キ皆意譯ナレハナリ

○卅四番三浦安 本官モ廿三番ノ修正說ヲ賛成ス換用ノ文字アラハ之

ヲ用ヒ支那字ニ假名ヲ加ヘテ通シ易カラシム可シ但文字ノ當否ニ至テハ發議者モ言アル如ク本官ハ通業締約トセハ或ハ當ランカト思ヘリ

○議長 卅四番ハ廿三番ノ賛成ニアラスシテ別ニ說アルモノ、如シ

如何

○卅四番三浦安 全ク賛成セリ廿三番ハ猶ホ穩當ノ字ヲ要スルカ如ク

ナルヲ以テ試ニ通業ノ字ヲ以テ其意ニ應セシニ過キサルナリ

○十九番大給恒 廿三番ヲ賛成ス文字ノ當否ハ姑ク論セス已ニ支那ニ

テモ合同ノ字ヲ用ユル例アル以上ハ別ニ穿鑿ヲ要セス我モ亦之ヲ用ヒテ可ナリ

○二番神田孝平 至當ノ譯字アラハ格別ナレト合同締約トハ同義ヲ重ヌ

ルニ過キスシテ妥當ナラサルヲ以テ從フ能ハス又第十條ニ豫テ取引約定アル云々トアルハ本條ノ場合ト異ナリトノ内閣委員ノ辨明アリ或ハ恐ル問題ノ如クンハ此取引約定トアルニモ混スルコトアラシコトヲ且ツ首尾一々假名ヲ付スヘカラサルヲ以テ彼此比較セハ寧ロ原案ノ平易ナルニ加カサルナリ

○廿三番箕作麟祥 二番ノ言ヲ聞クニ問題說ノ如クンハ第十條ノ取引約

定トアルニ混淆シ易キヲ以テ不可ナリト云フカ如シ原案コルレス

ポシダンスヲ締約スル云々トアレハ却テ取引約定アル云々ト云フ
ニ混淆スルノ恐レ無シトスルカ豈「コルレスポシダンス」ヲ合同ト
スルヲ以テノ故ニ第十條ト混淆シ原案ノ如ク「コルレスポシダンス」
ナラハ混淆スルノ憂ナシトスルノ理アラシヤ單ニ合同ノ字面ニテ
不當トナラハ聞クヲ得ヘキモ本條ト第十條トノ故ヲ以テ混淆セン
コトヲ恐レ原案ニ從フヘシトノ攻撃ハ問題ニ對シテ力ナク本官毫
モ其痛痒ヲ感セサルナリ

○卅三番 渡邊 洪基 本官ハ英佛ノ人ニアラス惡ソ原語ニ固着セン但十年
間用ヒ來テ妨ケナク我カ便利ヲ爲スモノヲ以テ今、遽ニ適當ノ譯字
ヲ得ントスルハ一時ニ難キヲ求ムルモノナラスヤ特ニ合同ハ合併
ト同一義ナリ原語ハ連絡營業ノ義ナレハ合併ノ意トナスハ尤モ不

適當ト云ヘシ

○外二番 加藤 濟 現問題ニ對シ一言セン抑モ此ノ原語ハ彼レニ在テハ
尋常手簡ヲ書スルニモ「コルレスポシダンス」ヲ書スト云ヒ或ハ船ヨ
リ船ニ車ヨリ車ニ移ル手形ヲ取ルニモ此語ヲ用ユ然レモ銀行ノコ
ルレスポシダンスハ支店出張所ノ資格ヲ有スルモノヲ指スニアレ
ハ若シ合併ノ意味ナルモノヲ以テ之ニ當ルトキハ甚タ銀行ニ慣用
スルノ語意ニ背戻ス苟モ別ニ好文字アラハ謹テ聽クヲ得ヘキモ然
カラサレハ原案ヲ維持セサルヘカラス
○議長 論議已ニ盡タリト認ルヲ以テ決ヲ取ラン廿三番ノ修正説ニ
同意者ハ起立スヘシ

起立者七人

○議長 少數ナルヲ以テ廿三番ノ修正説ハ消滅ス

○十二番 渡邊清 本官ハ本條中「又大藏卿ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリ

トスル時ハ云々」以下ヲ削除セントス元來日本銀行ハ政府ノ關涉スル所其半ニ在リ加ルニ本銀行ノ隆替ハ他ノ銀行ノ盛衰ニ關スルヲ以テ支店出張所ヲ設置スルニモ大藏卿ノ許可ヲ得サレハ能ハストスルハ事ヲ鄭重ニセシモノナラン又政府善後執行ノ都合アルヲ以テ敢テ間然ナキモ已ニ大藏卿ノ許可ヲ得サレハ爲シ能ハサル事柄ナリトセハ銀行者流ノ濫リニ設置スヘキ懸念アルコトナシ其置クト置カサルトノ權ハ乃チ大藏卿ノ掌握スル所ナルヲ以テ此文ヲ要セサルナリ或ハ出納局出張所ヲ廢シ又ハ收稅委員ヲ省クカ爲メ之ヲ設置スル如キハ別段ナリト雖モ法律ニ命シテ之ヲ設置セシムル

云々」ヲ明記スルハ威權ヲ負フノ重キニ過キ薄カ不穩ナルヲ以テ寧

○口之レナキノ勝レルニ如カサルナリ

○議長 十二番ノ修正説ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス他ニ發議ナクン

○ハ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

○起立者廿一人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第三條

日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三十ケ年トス但株主總會ニ於テ多數ノ同意ニ依リ營業ノ延期ヲ出願スルコトヲ得

○廿五番 東久世通禮 本官字句ノ修正アリ本條中「滿三十ケ年」ノ「ケ」ノ字

ヲ削リ又株主總會ニ於テ多數ノ「トアル」ニ於テ多數ノ五字ヲ削リ
 「ノ同意ニ依リ」ノ「同意」ノ二字ヲ決議トシ「延期ヲ出願スルコトヲ得」
 ノ出字ヲ請字ニ改メ即チ株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願
 スルコトヲ得ト修正セントス是レ他意アルニアラス其煩冗ヲ避ケ
 簡明ヲ主トスルヲ以テナリ且ツ本修正說ニ決セハ第四條ニアル同
 文字モ一樣ニ修正セシモノト假定センコトヲ欲ス

○十七番 鍋島直彬 賛成

○十六番 伊丹重賢 賛成

○十二番 渡邊清 賛成

○議長 廿五番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題トス念ノ爲メ其修
 正案ヲ朗讀セシムヘシ

書記官 森山茂 左ノ修正文ヲ朗讀ス

第三條

日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三十年トス但株主總會ノ決
 議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得

○議長 廿五番ノ修正說ニ同意者ハ起立スヘシ
 起立者廿一人

○議長 多數ナルヲ以テ廿五番ノ修正說ニ決シ次條ハ修正セシモノ
 トシテ朗讀セシムヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第四條

日本銀行ノ資本金ハ壹千萬圓ト定メ之ヲ五萬株ニ分チ一株貳百圓

トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増加ヲ請願スルコトヲ得

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラシ本案ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第五條

日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許
サス

○廿五番 東久世通禎 本案ニモ字句ノ修正アリ「日本銀行ノ株券ハ總テ記

名券トナシ云々」株券ト云ヒ復タ記名券ト云フトキハ券ノ字重複シ
加ルニ總テノ字アルヲ以テ他半ハ之ナキヤノ嫌アリ故ニ「總テ」ノ

二字ト記名券ノ「券」ノ一字ヲ削リ日本銀行ノ株券ハ記名トナシ云

々ト修正セン此ノ如クナレハ文意明晰タラン

○十六番 伊丹重賢 賛成

○議長 廿五番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題トス仍ホ念ノ爲メ
修正案ヲ朗讀セシムヘシ

書記官 森山茂 左ノ修正文ヲ朗讀ス

第五條

日本銀行ノ株券ハ記名トナシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サ
ス

○卅一番 柴原和 廿五番ノ記名券ノ券ノ字ヲ削ルハ其當ヲ得タルヲ以

テ賛成セントスルモ如何セン總テノ二字ヲモ合セテ削除スルト云

フハ同意スルコト能ハサルヲ彼ノ公債證書等ニモ記名アリ無記名アリ是レ有無ヲ分別スルノ爲メナレハ券ノ一字ヲ削ルハ固ヨリ可ナリト雖モ總テノ二字ヲ削除スル時ハ文字ノ接續穩當ナラス故ニ原案ノ如ク存スルヲ以テ是ナリトス其期ヲ得ハ本官ハ別ニ修正説ヲ提出セントス

○廿三番 其作 麟祥 本官ハ原案ヲ可トス總テノ字ノ存廢ハ深ク論スルヲ須ヒス只券ノ字ハ重複ニ似タルモ若シ之ヲ除キ單ニ記名トセハ或ハ語ヲ成サ、ルノ恐レアリ記名券トハ即チ固有名詞ナレハ廿五番ノ説ノ如クスルハ不可ナリ

○一番 本甲 親雄 本官モ原案ヲ可トス何トナレハ用字ノ法重複ナラサルヲ得サル場合ニ於テハ強テ之ヲ忌マサルヘキヲ以テナリ

○九番 津田 眞道 本官モ問題説ニ同意スル能ハスタトヒ財政困難ノ今日ナリト雖モ僅ニ兩三ノ文字ヲモ儉約スルニハ及ハサルヘシ
○議長 發議盡キタリト認ルヲ以テ決ヲ取ラン廿五番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ廿五番ノ修正説ハ消滅ス

○卅一番 柴原 和 本官ハ前ニ券ノ一字ヲ削リ總テノ二字ヲ存スルノ説ヲ陳セリ今ヤ此ノ修正説ヲ出スノ時期到來スト雖モ各位ノ原案ヲ護持スルノ説ヲ聞キ稍々感スルアリ即チ善ニ從フ流ル、如シノ格言ニ倣ヒ原案ヲ是認ス

○議長 本案ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者廿一人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第六條

日本銀行ノ株主トナラントスルモノハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

○卅一番 柴原和 本條ノ如クンハ株主タラントスルノ請求者ハ直ニ大

藏卿ニ請願スヘシト云カ如シ定款第十四條ニハ「日本銀行ノ株主ト

ナラントスルモノハ本銀行ヲ經由シテ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ」ト

アリテ「本銀行ヲ經由シテ」ノ八字アリ兩者孰レニ從ント云ハ、條

例ハ一般ニ布告スルモノナレハ重シ乃チ之ニ服從シテ直ニ大藏卿

ニ請願センカ定款ハ遂ニ無効視セラルヘシ故ニ定款ノ意ニ基キ主

格ヲ本銀行ニ取り日本銀行ノ株主ハ大藏卿ノ許可ヲ得テ之ヲ承認スヘシト修正セントス是レ蓋シ原案ノ意ヲ以テ意トセシモノニ過キサルナリ

○十二番 渡邊清 賛成

○議長 卅一番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題トス念ノ爲メ其修

正案ヲ朗讀セシムヘシ

書記官 森山茂 左ノ修正文ヲ朗讀ス

第六條

日本銀行ノ株主ハ大藏卿ノ許可ヲ得テ之ヲ承認スヘシ

○卅三番 渡邊洪基 原案ニテ不可ナシ問題ノ如クンハ大ニ其當ヲ得サル

モノトス何トナレハ條例出テ株主生シ銀行始メテ建ツ本條ノ場合

ハ未タ銀行成立セサル以前ノナレハナリ其定款ノ如キハ本官等
ノ論及スルヲ要セサルナリ

○十九番 大給恒

本官モ現問題ニ同意スル能ハス蓋シ本條ハ凡株主タ
ラント欲スルモノハ斯ノ如クスヘシトノ意ヲ指示セシモノニシテ
案中緊要ノ文ナリ既ニ大藏卿ノ許可ヲ得シ上又更ニ何人ノ承認ヲ
得ヘキヤ修正ノ意義解スル能ハサルナリ

○十二番 渡邊清

本官ノ卅一番ヲ賛成セシ意ヲ述ン原案ノ如キモ甚シ
キ支障アリト云ニアラサレトモ孰レヲ以テ勝ルトセハ寧ロ卅一番
ノ修正ニ如カサルナリ蓋シ原案ノ如クンハ條例ヨリ株主ニ對シ命
令スルニ似テ語意穩カナラス且銀行條例トアルモ其實ハ定款ト異
ナラサルモノナルニ原案ニ依レハ株主ハ如何シテ大藏卿ノ許可ヲ

得ヘキヤノ疑ナキ能ハス之ニ反シ問題ノ如クンハ既ニ大藏卿ノ許
可ヲ得テ後本銀行ニ於テ其株主タルヲ承認ストノ意味明確タリ又
條例發表セハ株主隨テ出テ始メテ總裁副總裁ノ撰任アルヘク隨テ
主務省ニ於テハ一局ヲ設ケ此事ヲ擔當セラル、ナラン此際孰レヲ
先ニシ孰レヲ後ニスルト云フノ論ハナカルヘシ問題ノ如キハ條例
ノ體面ヲ裝飾スルニ過キサルナリ

○卅一番 柴原和

或議官ハ定款ニ論及スルヲ要セスト云フ本官以爲ラ
ク定款ハ參照ノ爲メ下付セラレタルモノナリ何ノ憚リアリテ之ヲ
秘センヤ條例中既ニ定款ヲ以テ定ムノ文字アリ本官ハ論シテ此ニ
及フハ最モ不可ナシトス或ハ云ク本條ノ場合ハ未タ銀行立タサル
以前ナリト夫レ我國普通ノ國立銀行創立ニ際シ其株主ヲ募集スル

ハ抑モ何等ノ手續ヲ以テスルカ是レ自カラ順序アリ發起人ト云ヒ
 起立人ト云ヒ皆新聞紙等ヲ以テ廣告ノ手續ヲ爲スナリ日本銀行ハ
 特殊ナルニ因リ此條例ヲ布告スト云フモ其實ハ同事ナリ故ニ此布
 告發表セハ勅任ノ總裁モ任セラルヘシ着手ノ順序モ立ツナラン苟
 モ本案ハ一個人各大藏省ニ到リ謁ヲ大藏卿ニ取り其許可ヲ得ヘシ
 ト云ノ謂ニアラスシテ乃チ本銀行又ハ其取扱所ヲ經由シテ許可ヲ
 得セシムルノ精神ナラン然ラハ則チ本官ノ修正説モ亦本案ト異ナ
 ルコトナシ或説ニ條例出レハ銀行立チ株主タラントスルモノハ銀
 行ニ到ル可シト云フモ文字上ヨリ解ヲ爲セハ決シテ其説ノ如ク意
 義通セサルナリ故ニ本官ハ意ヲ此ニ注キ大藏卿ノ許可ヲ得ルノ捷
 路ヲ開示セントスルナリ若シ夫レ大藏卿ノ指令ヲ得ハ銀行ヨリ本

人へ郵便等ヲ以テ通達シテ可ナリ其承認ノ文字ノ如キハ承諾ト云
 フモ同シク承リ認ルト云フニ過キス

○十九番 大給 恒

本官ニ對シ發議者ヨリ辨駁アルモ本官ハ大ニ其見ヲ
 異ニセリ抑モ本條ハ株主ニ令セシニアラスシテ銀行ニ命スルノ意
 ナリ定款ニ本銀行ヲ經由シテノ文字アルハ乃チ其手續ヲ詳ニセシ
 モノニシテ其意自ラ分明ナリ然ルニ問題ノ如クンハ承認ノ文字重
 キヲ加ヘ殆ント主トナリ許可ヲ受クルノ字却テ輕クナルナリ知ラ
 ス本條ハ銀行自ラ其株主ノ株主タルヲ認ルヲ得スシテ乃チ大藏卿
 ノ承諾ヲ得テ始メテ株主ト認ルヲ得ルコトヲ故ニ本官ハ此條ヲ目
 シテ銀行ヘ對シ命令セシモノナリトノ解ヲ下スコト爾リ

○卅三番 渡邊 洪基

本官カ定款ニ論及スルヲ要セスト云フハ乃チ議案外

ニ出テ事錯雜ニ涉ルヲ以テナリ蓋シ條例ノ効用タルヤ日本銀行ハ
 斯ノ如クシテ其設立スルヲ得ト云フノ意ヲ明示セシモノニシテ乃
 チ銀行設立以前ノ組織ニ係ルモノナリ試ニ之ヲ言フニ此ニ甲者ア
 リ本條ノ如キ該株主タラントスルモノハ大藏卿ノ許可ヲ受ケサル
 ヘカラストナスカ如キ手數ノ煩雜ナルハ欲セサルヲ以テ之ヲ辭
 スト云フモ乙者ニ於テハ此ノ如ク堅固ナルハ却テ我カ好ム所ナリ
 トシテ加入スルモノアラシ是レ各個ノ隨意ニシテ乃チ其根底ヲ定
 ムルモノト云フテ可ナラン定款ニ至テハ即チ銀行成立後ノ手續ニ
 シテ彼此趣ヲ異ニセリ固ヨリ同一ニ論スヘカラスト問題ノ如クンハ
 一方ニ偏シ却テ其區域狹隘ナルヲ覺フルナリ

○卅一番 柴原和

反對論ノ論シテ定款ニ及ハスト云フハ尙ホ可ナリ承

認ストセハ大藏卿ノ許可ナルノ點輕キニ失シ却テ總裁カ承認スル
 ノ點重キヲ副フト云フハ不可ナリ其之ヲ承認スルハ大藏卿ノ許可
 アリシヲ証シテ承認スルニアレハ毫モ輕重相分ル、所以ヲ見ス駁
 論ノ如クンハ猶某縣令カ内務卿ノ指令ヲ待テ事ヲ行フニ縣令ノ權
 重ク内務卿ノ權輕シト云フカ如シ世豈此理アツテ可ナランヤ

○廿三番

箕作麟祥

本官モ原案ヲ可トス發論者ハ本條ノ如クンハ株主タ

ラント欲スルモノ陸續大藏省ニ到リ之ヲ請願スルモ知ルヘカラスト
 ト云フト雖モ本官ハ敢テ此關心ナシトス若シ發論者ニシテ痛憂置
 ク能ハスンハ寧ロ定款ノ本銀行ヲ經由シテノ八字ヲ移シ來テ此條
 ニ加ルニ如カス然レトモ原案ノ如キ文法ハ一ニ此條ニ止マラス往
 ヤ散見セリ苟モ法律ヲ議スルニ方リ斯ク瑣細ノ事ニ及フハ本官ノ

甚々好マサル所ナリ唯已ヲ得スハ定款ノ文定ヲ移來ルニ如カス
ト云フニ過キササルナリ

○議長 討議已ニ盡キタリト認ルヲ以テ決ヲ取ラン卅一番ノ修正説
ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ卅一番修正説ハ消滅ス他ニ發議ナクンハ本
案ノ決ヲ取ラン之ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者廿人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第七條

資本金總額五分ノ一即チ二百萬圓ノ入金アル時ハ營業ヲ開始スル

ヲ得ヘシ但資本金募集ノ手續ハ定款ヲ以テ定ムル者トス

○議長 他ニ發議ナクンハ決ヲ取ラン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者廿二人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第八條

營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ内幾分ヲ減少シタル時ハ
其事由ヲ審明シ資本金殘額ヨリ其闕額ニ充ル迄ノ金額ヲ追募ス
ヘシ

○卅四番 三浦安 本條ハ事ノ細雜ニ涉ルヲ覺フ已ニ第七條但書ニ於テ

「資本金募集ノ手續ハ定款ヲ以テ定ムル者トス」トアレハ此詳細ハ定款ニ掲載スルヲ以テ足レリトス故ニ之ヲ定款ニ譲リ本條ハ削除シテ可ナリ

○議長 卅四番ノ修正説ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○二番 神田 孝平 本條ニ對シ本官只一字ノ修正アリ即チ追募ノ募ノ字穩

カナラサルヲ以テ之ヲ收ノ字ニ換ユル是レナリ夫レ募ノ字タル株

主ヲ募ルト云ヒ兵ヲ募ルト云フ之レ咸ナ望ミアル者ヲ招ク意ナル

可キモ其事已ニ成リシ後ニシテ唯其殘額ヲ補充スルニ過サルモノ

ナレハ募ノ字ハ不適當トス乃テ「追募ヲ」追收ニ改作セントス

○一番 本田 親雄 賛成ス本案ハ更ニ募ルニアラスシテ殘額ヲ集ムルニア

レハ收ノ字ニ改ルハ適當ナリ

○議長 二番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○議長 問題ニ對シ別ニ發議ナクンハ決ヲ取ラン二番ノ修正説ニ同

意者ハ起立スヘシ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ二番ノ修正説ハ消滅ス本案ニ同意者ハ起立

スヘシ

起立者十九人

○廿三番 箕作 麟祥 已ニ第八條ハ本案ニ決シ將ニ次條ニ移ラントスルニ

際シ特ニ第八條ノ次ニ一條ヲ置カントス其修正ハ即チ卅四番カ第

八條削除論ノ裏面ニアリテ嘗テ參事院會議ニ於テ削除シ今説明書

ニ跡ヲ留メシ所ノ舊第八條ノ「事業ノ伸張ニ由リ資本金ノ増加ヲ要

スル時ハ之ヲ資本入金殘額ヨリ追募スヘシト云フ是ナリ蓋シ向ニ内閣委員ハ參事院ニテ該條ヲ削除セシ所以ヲ述ヘタリ苟モ本案ニシテ其營業上損失ヲ生セシ時ハ追募スルトノ一事ヲ掲ケサレハ已ム既ニ之ヲ掲ク獨リ事業ノ伸張ニ由リ追募スルノ一事ハ定款ニアルヲ以テ爰ニ之ヲ省クト云フテ放任ス可シヤ彼ハ二百萬圓ニ不足セシヲ以テ追募シ此ハ二百萬圓ニテハ足ラサルヲ以テ追募スト云フノ理ハ同一ナリ況ンヤ其事ノ手續ト云フニ止マラサルニ於テヤ故ニ二條共ニ併掲シテ其作用ヲ明カニセントス幸ニ問題トナラハ此條ヲ第九條トシ以下之ニ準シ逐次條名ヲ改メントス

○十七番 鍋島直彬 廿三番カ參事院ニテ削除セシ一箇條ヲ第八條ノ次條ニ插入セントスルノ說ハ可ナリ其理由ハ發議者ヨリ陳述セシカ如

ク第七條ニ「資本金募集ノ手續ハ定款ヲ以テ定ム」トアリ尋テ第八條ニ於テ資本金減少シタル時追募スルノ手續ヲ示ス然レハ則事業ノ伸張ニ由リ資本金増加ヲ要スル追募ノ手續ヲモ舉示シ伸縮平等ヲ保タシムヘシ此ノ如クニシテ兩者始メテ完全ナリ

○議長 廿三番ノ發議ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○卅三番 渡邊洪基 本官ハ問題說ヲ不可トス第八條ハ第七條ニ二百萬圓入金アル時ハ營業ヲ開始スト云フノ意ヲ承ケ若シ營業ニ於テ損失ヲ生シ二百萬圓ノ中幾分ヲ減少シタル時ハ事業ニ障害アルヲ以テ速ニ之ヲ補闕シ資本金ヲシテ二百萬圓ノ零點ニ下ラシメサルノ意ヲ述ヘ以テ第七條ノ主意ヲ助ケタルモノナリ是ヲ之レ察セスシテ事業ノ伸張ニ由リ募集スル者ト同視スルハ當ヲ失セリトス

○卅一番 柴原和

本官ハ問題ヲ賛成ス向ニ卅四番ハ第八條アレハ二百萬圓ノ内幾分カ損失セサレハ募集スル能ハサルニ似タルヲ以テ一ニ定款ニ付託シ第八條ヲ削ルニ如カスト云フ適切ノ論アルモ本官ノ同意セサリシハ廿三番ト同感觸アリシヲ以テナリ已ニ損失アレハ之ヲ追募ス豈事業ノ伸張ニ由リ増募スルコトヲ明示セスシテ可ナラシヤ道理上ニテモ文面上ニテモ之レアルヲ良シトス

○廿三番 箕作麟祥

問題ヲ不可トスル卅三番ハ事業ノ伸張ニ由リ云々ノ一條ハ手續ナルヲ以テ不要ナリト論スルモ是レ決シテ手續ニアラス試ニ定款ヲ取テ一觀セヨ其第十條ハ本案第八條ニ適シ其第十一條ハ本官ノ此ニ提出セシ條ニシテ即チ事業ノ伸張ニ由リ云々ナリ彼レ已ニ之アリ是レ其手續ニアラスシテ却テ其基礎ヲ定ムル者ト

ス而シテ其第十二條ニ至リ始メテ其手續ヲ仔細ニ明スノミナラス過怠金ノコマテ詳記シテ遺サス今本官カ挿加セントスル一條ハ全ク追募ノ手續ニアラスシテ追募ノ場合ヲ豫定スルモノナリ

○十二番 渡邊清

廿三番ノ問題ヲ賛成ス本官前會ニ於テ之ヲ怪ミ内閣委員ニ質疑セシニ其答ニ此條ハ載セテ定款第十一條ニアツテ分明ナルヲ以テ削除セシト云フ是レ最モ解スヘカラサルノ説ナリ但營業上ノ損失ヲ補フニ追募アレハ事業ノ伸張ニ増募ナカルヘカラサルハ理ノ最モ觀易キモノナリ何ノ道理アリテ削除スルコトカ之レアラシク廿三番ノ説ハ實ニ我心ヲ得タリ

○九番 津田眞道

説明書中ニ在リテ削除セシ事業ノ伸張ニ由リ追募云々ノ一條ヲ執テ之ヲ本案ニ復セシメントス本官ハ之レナキモ事明瞭

ニシテ疑ナシトス何トナレハ第四條ニ日本銀行ノ資本金ハ一千萬圓ト定ムトアレハ結局一千萬圓募集スルヲ以テ正則トシ且二百萬圓ニ至レハ開始スト云フノミ故ニ若シ二百萬圓ニ充タサレハ止ムヲ得サルモ三百萬圓乃至四百萬圓又直チニ一千萬圓集マルニ至ラハ是ニ應シテ其事業ヲ爲スニアルヘシ是ヲ以テ之ヲ推セハ第七條ノ二百萬圓入金アル時ハ營業ヲ開始スト云フヲ以テ設ヒ資本金一千萬圓ニ至ルモ只二百萬圓ヲ使用シ殘餘ノ八百萬圓ハ遊金トシテ空藏スルモノナリトノ解釋ヲ下スモノアラシヤ苟モ腦臆アル者ハ能ク識得スヘキヲ以テ之レ無クシテ可ナリ

○十九番 大給恒 本官モ問題ノ條項ハ之ナキヲ可トス參事院ニテ削除セシハ理ノ當ニ然ルヘキモノナリ抑モ本銀行ハ一千萬圓ノ資本ト

定ムルモ先ツ二百萬圓入金アレハ業ヲ始ムト云フニ過キス若シ夫レ二百萬圓ニ至レハ其餘ハ募集スルコト能ハストアラハ或ハ是非ナキヲ以テ一條ヲ加ヘ事業ノ伸張ニ由リ資本金ノ増募ヲ要スルハ勿論ナルヘキモ素ヨリ然ルニアラス其極度ハ則チ一千萬圓ニ及フノ制ナルヲ以テ論者ノ如キ顧慮ヲ須ヒサルヘシ

○議長 討論已ニ盡キタリト認ルヲ以テ決ヲ取ラン廿三番ノ動議ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者九人

○議長 少數ナルヲ以テ廿三番ノ動議ハ消滅ス本日ノ會議ハ茲ニ止メ第九條以下引續キ明日例刻ヨリ開會セン今日ハ散會スヘシ

午後第四時二十分閉場

元老院會議筆記明治十五年六月二十日
○議案第一號 關於日本銀行條例第二讀會
○議案第二號 關於日本銀行條例第二讀會
○議案第三號 關於日本銀行條例第二讀會
○議案第四號 關於日本銀行條例第二讀會
○議案第五號 關於日本銀行條例第二讀會
○議案第六號 關於日本銀行條例第二讀會
○議案第七號 關於日本銀行條例第二讀會
○議案第八號 關於日本銀行條例第二讀會
○議案第九號 關於日本銀行條例第二讀會
○議案第十號 關於日本銀行條例第二讀會

元老院會議筆記明治十五年六月二十日

○第三百三十號議案 日本銀行條例第二讀會 六月十九日ノ續

議長 代理 佐野常民

出席議員

- | | |
|----|-------|
| 一番 | 本田 親雄 |
| 二番 | 神田 孝平 |
| 四番 | 稅所 篤 |
| 六番 | 楠田 英世 |
| 七番 | 伊集院兼寬 |
| 八番 | 大久保一翁 |
| 九番 | 津田 眞道 |

十二番 渡邊 清
 十六番 伊丹 重賢
 十七番 鍋島 直彬
 十八番 九鬼 隆一
 十九番 大給 恒
 廿一番 楠本 正隆
 廿二番 野村 素介
 廿三番 箕作 麟祥
 廿四番 西 周
 廿五番 東久世通禧
 廿六番 榎村 正直

廿九番 林 友幸
 三十一番 柴原 和
 三十二番 鍋島 幹
 三十三番 渡邊 洪基
 三十四番 三浦 安
 内閣委員 一番 参事院議官山尾 庸三
 参事院員外議官補加藤 濟
 参事院議官補男谷 忠友
 午前第九時四十分開場
 ○議長 第三百三十號議案第二讀會ノ續會ヲ開ク例ニ遵ヒ發議スヘ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第九條

純益金總額ヨリ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クモ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立金ト爲ス可シ

第一 資本金ノ損失ヲ補フ

第二 割賦金ノ不足ヲ補フ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ニ同意者ハ起立スヘシ
全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十條

日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事

第二 地金銀ノ賣買ヲ爲ス事

第三 金銀貨或ハ金銀塊ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第四 豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金取立ニ從事スル事

第五 諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬並諸證券類ノ保護預リヲ爲ス事

第六 公債證書其他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ當坐勘定貸又ハ定期貸ヲ爲ス事但シ其金額及利子ノ割合

ハ總裁副總裁理事及監事ノ協議ヲ以テ時々決議シ大藏卿
ノ許可ヲ受クヘシ

○十六番伊丹重賢 本官聊カ修正説アリ本條第三項ニ金銀貨或ハ金銀塊
ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事トアリテ地金銀ノ字ナシ然レモ第二項
ニ地金銀ノ賣買ヲ爲ス事トアリテ地金銀ヲ賣買スルハ銀行營業
ノ一部ニ屬ス已ニ之ヲ賣買ス何ツ之ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲サ、ル
ノ理アラシヤ故ニ本官ハ第三項ヘ地金銀ノ三字ヲ加ヘ金銀貨或ハ
地金銀金銀塊ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事ト修正セントス

○三十一番柴原和 本條第三項ニ地金銀ノ三字ナキ時ハ抵當トスヘカ
ラサルカ如シ若シ夫レ金銀塊ナラハ鑒定ニ苦シムヲ以テ之ヲ辭ス
ル可ナルモ已ニ賣買シ得ヘキ地金銀ニシテ抵當トスヘカラサルノ

理ナキヲ以テ修正説ヲ賛成ス且本官ハ本條第一項ニ修正説ヲ有ス
ルニ依リ願クハ一項毎ニ取決セラレンコトヲ特ニ建議ス

○議長 一項毎ニ取決スル敢テ不可ナキモ今ヤ朗讀ヲ經シ後ニアレ
ハ一應衆議ニ問シ三十一番ノ建議ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二十人

○議長 多數ナルニ依リ一項毎ニ取決セン就テハ十六番ノ修正説ハ
第三項ニ至リ提出セラルヘシ

○三十一番柴原和 本條第一項ニ政府發行ノ手形爲換手形其他商業手
形等云々トアリ内閣委員ノ説明ニヨレハ爲換手形ハ政府之ヲ發
スルモノ、如シ而シテ文面ヲ觀レハ同シク政府發行ニ係ルニ似タ
リ故ニ其他ノ二字ヲ爲換手形ノ上ニ置キ即チ政府發行ノ手形其他

爲。換。手。形。商。業。手。形。等。云。々。ト。セ。ン。ト。ス。是。レ。政。府。ト。人。民。ト。ノ。區。別。ヲ。分

明。ニ。シ。人。ヲ。シ。テ。惑。ヒ。ナ。カ。ラ。シ。メ。ン。カ。爲。メ。ナ。リ

○二十三番 箕作 麟祥 賛成ス商業手形ノ政府發行ニアラサルハ判然タル

モ爲換手形ノ如キハ惑ヒナキ能ハス修正ノ如クンハ事明白ニシテ

文章モ亦具備スルナリ

○議長 三十一番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○十六番 伊丹 重賢 賛成

○三十三番 渡邊 洪基 文面ハ發議者ノ言ノ如ク少シク曖昧ナルニ似タル

モ問題ノ如クセハ却テ不可ナリ夫レ商業手形ハ一般ニ係ルノ名ニ

シテ爲換手形ハ其一部分タルニ過キス若シ修正説ノ如ク其他爲換

手形云々トスル時ハ其他ノ文字ノ拘ル所究メテ汎キニ失スルヲ如

何セン強テ之ヲ界セントナラハ寧口其他ノ字ハ依然トシテ存シ政
府發行ノ手形及ヒ爲換手形云々トセハ可ナラン乎本官ハ問題説ニ
同意スルコト能ハス

○十九番 大給 恒 發議者ノ原案ノ不明瞭ナルヲ正サントスルハ同意ナ

ルモ如何セン修正説ノ如クンハ政府發行ノ手形其他爲換手形云々

ト云フニアリテ政府發行スルモノ、内ニ又其他ニ發行スルモノナ

ルヤノ嫌ナキ能ハス蓋シ「其」ノ字タル上ヲ受ルノ意味アルヲ以テ

ナリ寧口原案ヲ可トス

○議長 發議已ニ盡キタルヲ以テ決ヲ取ラン三十一番ノ修正説ニ同

意者ハ起立スヘシ

起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ三十一番ノ修正説ハ消滅ス他ニ發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本條第一項ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二十人

○議長 多數ナルヲ以テ原案ニ決シ第二項ニ移ルヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案第二項ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二十人

○議長 多數ナルヲ以テ原案ニ決ス便チ第三項ニ移ルヘシ

○十六番 伊丹重賢 前陳ノ如ク本項ヘ地金銀ノ三字ヲ加ント欲ス

○三十一番 柴原和 賛成

○議長 十六番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○三十六番 渡邊洪基

本項問題ノ如ク修正スルモ未タ盡セリトセス何ト

ナレハ金銀塊ト云フモ元來是レ地金銀中ニアリテ重モナルモノナ

レハ之ヲ併掲スル時ハ重複ノ累ヒナキ能ハス然ラハ原案ニ荷擔セ

ンカ是レ又不完全ナルヲ以テ同意スルコト能ハス本官ハ現問題消滅

セハ別ニ修正ヲ加ルニ貴金屬ノ字ヲ以テセントス此字タル未タ法

律文ニ用ヒシヲ見スト雖モ現ニ文部省出版ニ係ル小學讀本等ニモ

金銀「プラチナ」ヲ貴金屬トスルコトアリテ一般人ノ知ル所トナレリ若

シ原案ノ如クセハ金銀瓶其他潰シニアラサルモノハ抵當ト爲ラサ

ルカ如シ蓋シ本項ハ實價アルモノハ抵當トシテ貸金ヲ爲スナラン

之ヲ貴金屬トセハ地金銀「プラチナ」金銀細工モ總テ此内ニ入ラン

且已ニ第五項ニ貴金屬ノ字アルヲ以テ之ヲ加フルヲ可トスルナリ

○三十一番柴原和 三十三番ハ現問題消滅セハ更ニ修正説ヲ提出スル

ニ貴金属ノ字ヲ以テセント云ヘリ是レ奇説ト云フヘキナリ抑モ本銀行ノ營業ハ確實ヲ主トシ第十一條ニ於テ第十條ノ外他ノ營業ニ關涉スルコトヲ禁セシニアラスヤ然ルニ三十三番ノ言ノ如クセハ金銀瓶其他金銀細工モノヲ質ニ取り貸金ヲ爲スカ如シ豈危殆ノ營業ト云ハサルヲ得ンヤ第五項ニ貴金属ノ字アルモ彼ハ保護預リニ係ルモノナリ請フ彼此混同スル勿レ

○二十九番林友幸 本官ハ問題説ニ同意スルコト能ハス何トナレハ日本銀行ノ營業ハ左ノ如シトシテ金銀貨或ハ金銀塊ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事トシ以テ其制限ヲ定メタリ然ルニ仍ホ是ヲモ抵當トシテ貸金ヲ爲スヘシトスルカ如キハ本官ノ欲セサル所ナリ

○十六番伊丹重賢 駁説ニ對シ本官ハ熱心シテ抗論スルニアラスト雖モ金銀塊ト地金銀トハ性質ヲ殊ニシ一ハ混合物ヲ含ミ一ハ分析セシ潰シ金銀ナレハ指環ノ類ノ如キモアラン仍テ本官ハ之ヲ明瞭ナラシメント欲スルニアルナリ

○二番神田孝平 本官モ十六番ノ修正説ニ同意ス其理由ハ世上高價ヲ以テ賣買スル古金銀ハ法律上地金銀トナシ貨塊ノ類ニ入ラサルヲ以テ地金銀ノ三字アルハ尤モ好シトス且古金銀ノ類ハ固ヨリ抵當トシテ可ナラン

○議長 番外二番ニ問フ金銀塊ハ山ヨリ出テシ儘ノモノニシテ地金銀トハ分析シ棒ニ作りタルモノト云フ如キ判然タル區別アリヤ
○加藤 第二項第三項ニ對シ論議アリト雖モ己ニ地金銀ノ賣

買ヲ爲スヲ得レハ之ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲スヲ得ルハ當然ノコナ
リ蓋シ金銀塊ト雖モ抵當トスルヲ得ルノ意ナレハ地金銀ノ事ハ云
ハスシテ知ルヘキノミ

○三十三番 箕作麟祥 本官モ薄カ疑ヲ懷キシニ議長ノ問ニ依リ番外二番
ヨリ明了ノ答辨アリ掲ケサルモ掲クルニ同シト云フ然レハ省略セ
シヨリハ明掲スルノ丁寧ナルニ如カス仍テ十六番ノ修正説ヲ賛成
ス尙且説アリ時トシテハ賣買ヨリハ抵當トスルノ利アルコアリ又
物ニ由リ賣買ヲ禁シテ抵當ヲ許スコアリ文面上明白ナルヲ好シト
ス

○十九番 大給恒 本官モ亦疑ヲ解ケリ言ヲ聞キ事ヲ察スレハ向ニ十六
番ハ熱心シテ抗セスト云ヒシモ此ノ如クハ隨分熱心シテ抗論ス

ルノ價直アルモノナリ起草ノ意ハ賣買ニシテ爲スヲ得ハ蓋ソ抵當
貸金ヲ爲スヲ得サランヤト云ヘリ夫レ然リ然レモ若シ明文ナケレ
ハ抵當トスル能ハスト解スルモノアリテ人民ノ便ヲ圖ルノ主趣ニ
負クヲ以テ十六番ノ修正説ヲ賛成ス

○番外一番 山尾庸三 昨日來地金銀ト金銀塊トニ對シ討論アリト雖モ兩箇
舊ト判然タラス看來レハ三十三番ノ言ノ如ク「プリユラン」ノ字ヲ
用ユレハ二様同物ニ歸ス止タ地金銀トハ金ハ金銀ハ銀トシ金銀塊
ハ金銀ノ比例立タサルノ差ニ過キササルヘシ強テ並掲スルヲ要セサ
ルヘシ化學上ヨリ論セハ區別フルニ難カラシ

○議長 番外一番ニ問フ貴金屬ハ第五項ニアリテ他ノ項ニ之ナシ然
ラハ「ヲチ」ハノ貴キモ賣買抵當ト爲サ、ルヤ又工部省等官府ニテ

地金銀ト金銀塊トノ區別ハ如何スルヤ例ヘハ棒金ヲ地金銀ト云ヒ何々ハ金銀塊ト云フ事アリヤ

○番一山尾庸三 本案ノ精神ハ然リ商業社會ハ自ラ別アリ又二個ノ區別ハ造幣局ハ之ヲ知ラス其他ハ其場所ニヨルヘシ化學上ニテハ區別スル能ハサルナリ

○十七番鍋島直彬 問題說ヲ賛成ス既ニ成文法ヲ以テ日本銀行ノ營業ハ左ノ如シトシ第二項ニ地金銀賣買ノ事アルヲ以テ第三項ニ於テ之ニ抵當貸ヲ爲スハ論ナシトシテ放棄セシハ起草者ノ想像タルヲ免レス且ヤ番外一番ノ説明ニ依レハ地金銀ト金銀塊トハ分別シ難シト云ヘリ本官ハ斷然別アルモノトス地金銀ハ器物製造ノ價ヲ見ス唯地金ノ價アルモノヲ云ヒ金銀塊ハ未タ器物トナラサルモノヲ云

フナリ若シ番外一番ノ言ノ如クナラハ第二項第三項ニ之ヲ分ツテ記載スルヲ要セサルヘシ

○議長 討論已ニ盡キタリト認ルヲ以テ決ヲ取ラン十六番ノ修正說ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長 多數ナルヲ以テ十六番ノ修正說ニ決ス便チ第四項ニ移ルヘシ

○二十五番東久世通禧 本官字句ノ修正アリ本項ニ豫テ取引約定アル云々手形金取立ニ從事スル事トアリ他項ヲ觀ルニ何々ヲ爲シ何々ヲ爲ス事トアリ從事スル事トアルハ此項ニ限レリ而シテ實際其特殊アルノ要ヲ見ス故ニ「手形金」ノ下ニ「一」字ヲ加ヘ「ニ從事」ノ三字

ヲヲ爲ノ二字ニ換ヘ「スル」ノ「ル」ノ字ヲ削ラント欲ス是レ畢竟他項ニ照應シ体裁ヲ一ニセントスルニアリ

○二番 神田 孝平 賛成

○議長 二十五番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○議長 他ニ發議ナクンハ決ヲ取ラン二十五番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十四人

○議長 多數ナルヲ以テ二十五番ノ修正説ニ決ス前例ニ依リ第五項ニ移ルヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ニ同意者ハ起立スヘシ
起立者二十二人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス便チ第六項ニ移ルヘシ

○二十三番 箕作 麟祥 本官ハ此第六項ヲ修正セントス是レ敢テ其精神ヲ

變スルニアラス本項ニ公債證書其他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ云々トアリ政府ノ保證ニ係ル證券トハ何等ノモノヲ指スヤ内閣委員ハ是レ追テ諸會社ノ發行スルモノニシテ政府之ヲ保證スルモノナリ而シテ之ヲ抵當ト爲シ得ルヤ否ヤハ未タ確定セスト云ヘリ本官認メテ之ヲ必用トセサレトモ後日無ルヘカラザルモノナルニ由リ茲ニ存置スルモ敢テ不可ナシト雖モ其事柄ニ於テ是ラサルモノアリ何ソヤ政府自ラ發行スルノ手形是ナリ會計年度前ニ仕拂便利ノ爲メ大藏省ヨリ手形ヲ發行スルハ各國皆然リ即チ第十條第一項ノ政府發行ノ手形ト云フハ此類ナラン手形條例ニシ

テ發行アラハ其類別ハ判然タラン畢竟斯ル手形ハ出納ノ便利ニ供
 スルモノニシテ公債證書ト其効力ヲ同シ他ノ會社ノ發行ニシテ政
 府ノ保證ニ係ルモノニ比セハ更ニ確實ナルハ論ナカルヘシ之ヲ抵
 當トスヘカラストスルハ尤モ不可ナリ若シ銀行ニ於テ抵當トナス
 ヲ得サルノ理由アラハ大ニ之ヲ聞カンコトヲ欲スルモ恐ラクハ其理
 無カルヘシ既ニ第三項地金銀云々ノ時ニ論議アルカ如ク本銀行ノ
 營業ニハ重ク限制アルヲ以テ條項ニ其明文ナキ時ハ政府發行ノ手
 形ハ無論抵當ト爲スニ耐ユルモノト信スルモ其効用ヲ認ムル能ハ
 ス是レ職トシテ法律ニ明文無キノ由テ來ス所ナリ故ニ本官ハ本項
 「公債證書」ノ下ニ政府發行ノ手形ノ七字ヲ加ヘ「公債證書政府發行
 ノ手形其他政府ノ保證ニ係ル云々」トセントス又本項但書ニ「其金

額及利子ノ割合ハ總裁副總裁云々大藏卿ノ許可ヲ受クヘシトアル
 モ本官ハ此但書ヲ贅冗トスルノミナラス之ヲ掲クレハ他ノ條項ニ
 對シテ体裁ヲ失スルヲ以テ斷シテ之ヲ刪除セントス蓋シ其金額及
 利子ノ割合ハ役員決議ノ上大藏卿ノ許可ヲ得ルハ當然ノ事ニシテ
 定款第二十七條ニ詳載スルヲ以テ足レリトス畢竟定款ニ其手續ヲ
 載スルモノハ此法律實行ノ手段ヲ明カニスルニアレハ悉ク彼ニ讓
 リ此ニ除クヘキナリ若シ本項ニ之ヲ要ストセハ第一項ニ無ルヘカ
 ラサルハ勿論タルヘシ一ヲ舉テ他ヲ略セハ人アリ他ハ此手續ナシ
 トスルモ知ルヘカラスト故ニ有テ益ナク無キモ法律上缺ク所ナシ之
 レ其刪除ヲ欲スル所以ナリ

○二十九番 林友、賛成

○十九番 大給 恒 賛成

○二十六番 榎村 正直 賛成

○議長 二十三番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○三十三番 渡邊 洪基 本官強テ論スルニアラサルモ政府ノ保證ニ係ルト

ハ政府其責ニ任スル事ナルヲ以テ請人トナル場合モアリ又政府自
ラ發行シ其責メニ任スル事モアラン悉ク此保證ニ含蓄セリ即チ洋
語ガランチイフ意味ナレハ問題ノ如ク政府發行ノ手形ノ字ヲ加
ルハ所謂蛇足ヲ添ユルモノナリトス

○三十一番 柴原 和 本官ハ二十三番ノ修正説ヲ賛成ス三十三番ハ政府發
行ノ手形モ其保證ノ字中ニ含蓄スト云フ果シテ然ラハ公債證書モ
亦政府ノ保證ニ係ルヲ以テ含蓄ストシ之ヲ削ラントスルカ甚タ解

スル能ハス本官ハ政府ノ保證ニ係ルモノト政府自ラ發行スルモノ
トハ固ヨリ殊異アリトスルヲ以テ二十三番ニ同意ス又但書ノ事二
十三番ハ單ニ益ナシト云フモ本官ハ唯ニ益ナキノミナラス却テ害
アリトスルヲ以テ益々删除スルヲ好シトス

○十九番 大給 恒 本官問題ノ賛成者タルヲ以テ少シク其意思ヲ述ン或
説ニ政府ノ保證ニ係ルトアレハ政府發行ノ手形モ含蓄セリト云ヒ
原語ヲ以テ例證セリ然レトモ今日我國文ヲ以テスレハ政府保證ノ
字ニ政府發行ノ手形ヲモ包藏スルモノトハ得テ解スル能ハス本官
等法ヲ議スルモノニシテ仍ホ然リ況ンヤ他人ヲヤ已ニ第三項地金
銀金銀塊ノ區別ヲ論スルニ方リ地金銀ノ文字ナキモ第三項抵當貸
金ヲ爲スハ無論ナリト内閣委員ノ言アルニモ拘ラス銀行營業ニ制

限アル上ハ明文無シハ行ヒ難シト云フヲ以テ終ニ地金銀ノ三字ヲ加フルニ決セシニアラスヤ本項ト第三項ト又何ソ撰ハンヤ且其但書ノ如キ本項ヲ刪リ定款ニ讓ルハ固ヨリ其當ヲ得タリトス

○三十三番 渡邊 洪基

第三項中地金銀ノ三字ヲ加ヘシハ衍字タルヲ以テ本官敢テ欲セサル所ナリ或論者ハ公債證書モ政府ノ保證ニ係ルト云フ公債證書ノ政府保證ニ係ルハ固ヨリ然リ其部分中最要地ヲ占ルヲ以テ冒頭ニ之ヲ掲ケ其他政府ノ保證ニ係ルト云ヒシニアラスヤ其他ハ猶ホ等ト云フカ如ク一ヲ示シ他ヲ含ムノ意ナリ問題ノ如クセハ徒ヲニ同事ヲ重複スルニ過キス

○十六番 伊丹 重賢

本官モ二十三番ノ修正說ヲ贊成ス前會數々内閣委員ノ答辨ニ漸次大藏省ハ出納手形ヲ發行シ一般ノ便利ニ供スト云ヘ

ハ問題ノ如ク政府發行ノ手形ノ字ヲ加ヘ全備セシムルニ如カス元來本案ノ下付ニ至ルヤ起草者多少ノ腦力ヲ費シ加之内閣ノ調査ニ意ヲ用ヒラレタルハ分明ニ察知スル所ナルヲ以テ漫ニ修正ヲ加ルヲ欲セスト雖モ問題ノ如キハ其レ已ムヲ得サルモノナリ

○外二番 加藤 濟

問題說ニ對シ各位ノ注意ヲ喚起セント欲スルヲ以テ聊カ實際ノ要ヲ述ントス第一項ト本項トヲ對照シテ論ズル者アリト雖モ其但書ヲ前ニ置カスシテ此ニ置クモノハ薄カ此間ニ理由アリテ然ルナリ第一項政府發行ノ手形モ商業手形ト同シク一般割引ニ係ルモノナリ是レ本項ノ貸金利息トハ自ラ異ナル所以ニシテ割引ノ步合ハ十五日毎ニ何割何分ト定メテ之ヲ公告ス其公債證書等ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲スノ如キハ平生金銀出入ノ程度ヲ計リ譬ヘ

ハ資本金ノ内百萬圓乃至五十萬圓ハ之ニ充ツトシ時ニ應シテ其宜シキヲ制スルニアリ然ラサレハ大ニ金融ノ便利ヲ傷フニ至ル而シテ其結果ハ頗ル政府ニ關係ヲ有スルヲ以テ此ノ但書ヲ掲ケタルナリ第一項ト本項トノ殊別此ノ如シ願クハ原案ノ如ク存置セラレシトヲ

○議長 試ニ番外二番ニ問フ政府ノ保證ニ係ルノ字第一項ニナクシテ本項ノミニアルハ如何

○外二番加藤 前項ハ唯仕拂手形ノ如キモノヲ云ヒ本項ハ公債證書等係ル所汎ク當坐勘定貸又定期貸シアルヲ以テナリ

○二番神田孝平 本官ハ二十三番ノ修正説ヲ可ナリトセシカ今番外二番ノ説明ニテ但書ノ必用ナル所以ト第一項ト本項ト異ナル理由トヲ

聞ケリ然ルニ第三項ハ金銀貨金銀塊ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲スニアリ本項ノ意ヲ以テ推セハ三項ニモ但書無カルヘカラサルカ如シ今之レ無キハ如何

○外二番加藤 二番ヨリ第三項ノ貸金ヲ爲スニ本項ノ如ク但書ナキノ理由ヲ問ハル即チ第三項ハ金銀貨金銀塊ヲ抵當ニスルニアレハ銀行ハ其資力ヲ盡シテ之ニ應スルモ可ナリ獨リ公債證書ノ如キハ世上流通上最モ關係アルモノニシテ本銀行ハ專ラ理財ノ要衝ニ當レリ然ルニ其定度ナクシテ貸金ヲ爲ス時ハ爲メニ他ノ營業ヲ擴張スルヲ能ハサルニ至ラン之レ彼ニ無クシテ此ニアル所以ナリ

○三十一番柴原和 本官ハ番外ノ言ヲ聞キ益熱心シテ之ヲ削除セントス第六項ハ賣買ニアラスシテ抵當貸ヲ爲スニアリ第十五條ニ至テ

始メテ其賣買ノ事ヲ明記シ大藏卿ノ許可ヲ得ヘキモノトセリ本項但書ニ其金額及利子ノ割合ハ云々トシテ銀行資本金高何部分ヲ踰ルヲ得スト云フノ定限モアルナシ是レ其時ニ隨ヒ動キアルヲ以テ豫メ期シ難キノ故ナラン豈三項ト異ナルアラシヤニ番ノ質問ハ當然ノ事ナリ番外二番ハ金銀貨抵當貸ノ事ハ世間融通ニ係ルナキカ如ク看做スモ本官ハ決シテ然カラストス彼ノ洋銀相場ヲ見ヨ其影響ノ及フ所果シテ如何ソヤ是レ本項ニ但書ヲ要シ三項ニ但書ヲ要セスト云フヲ得サルナリ何トナレハ均シク其分量ヲ定メサルヲ得サルモノナレハナリ故ニ但書ノ有無ヲ以テ辨別スヘキニアラサレハ其削除ハ尤モ可トスル所ナリ

○番二番加藤
外二番加藤

本員ノ辨解未タ盡サ、ル如キヲ以テ更ニ一辨セント

ス公債證書ヲ抵當トスルモ金銀貨ヲ抵當トスルモ同一ノ如ク論セラル、モ但書ニアル其金額トハ公債證書ニ充ルノ金額ヲ云フ者ニシテ例セハ一千万圓資本金ノ内五百萬圓モ公債証書ノ爲メニ出ル時ハ一方ニハ公債證書價額ニ多少ノ影響ヲ生シ一方ニハ銀行本分タル割引ニ充ツヘキ資本減少ス是ヲ以テ本項ニ充ルモノハ二百萬圓乃至三百萬圓ト適宜ニ其制ヲ立テントスルナリ

○番三番男谷
外三番忠友

本員モ一言ヲ副ントス原來本銀行ハ大藏卿ノ奏議ニ

モアル如ク商業銀行ナリ現在ノ他銀行ハ不動産等ヲ抵當トシテ期限ノ長キヲ厭ハサルモ本銀行ハ專ラ割引ヲ主トシ極メテ運轉ノ活潑ヲ要スルニアレハ公債ヲ多ク買入ル時ハ其目的ヲ達スル能ハス是レ本項但書ヲ要スル所以ナリ

○九番津田

本官始メハ問題説ニ賛成セント欲セシモ内閣委員數回

ノ辨明ヲ聞キ本項但書ノ削ルヘカラサルヲ發明セリ各位モ了解セラレシナラン己ニ内閣委員ノ辨セシ如ク本銀行ノ主眼ハ專ヲ手形割引ヲ爲シ商業ヲ活潑ナラシムルニアリテ即チ本條第一項ニ明示セリ且他ノ銀行ノ如ク不動産ノ抵當貸ヲスルハ忌ム所ナルヲ以テ第一ニ不動産抵當貸金ヲ禁ス是ヲ以テ見ルモ但書ノ要用ナルヲ知ルヘシ夫レ公債證書ハ不動産ノ一部ニシテ土地家屋ニ亞クモノナリ外國ニテハ民法上不動産ト認ムルアリ斯ク但書ヲ置キ豫メ限量スルニアラスンハ他時何ヲ以テカ其宜キヲ制スルヲ得ンヤ

○十九番大給

内閣委員ノ辨明アリ又九番ノ反對説アリト雖モ本官

ハ問題ニ賛成セシ精神ヲ變スルコト能ハス到底但書ヲ要スルト云

フハ偏ヘニ過慮ノミ若シ本項ニ之ヲ要ストナラハ本條一項及ヒ三項ニモアルヘキニ獨リ六項ニ至リテ之ヲ削ヘタルハ一意爰ニ氣遣フノ然ラシムル所ナリ六項ト雖モ他項ト同シク此ノ如キモノモ營業スルヲ得ルト云フノ大綱ニ止メテ何ノ配慮カ之アラシヤ内閣委員ノ顧慮スル要旨ハ載セテ定款第二十七條ニアリ金額及利子ノ割合ヲ決議シ大藏卿ノ許可ヲ受ル等ノ事柄ヲ定ムルハ固ヨリ定款ノ本分タルヲ信ス若シ公債証書ニ資本金ヲ盡スヲ恐ル、ヲ以テ但書ヲ要ストナラハ第三項ニモ之アルヘキハ論ナキナリ單ニ本項ノミ之ヲ要ストセシハ過慮ニアラスシテ何ソヤ

○十二番渡邊

修正論ト辨明説ト支吾アルカ如シ要スルニ修正論ト

雖モ但書ノ下ハ大藏卿ノ許可ヲ受ルニ及ハスト云フニアラス委員

ノ辨明モ亦然リ只之ヲ本項ニ存置スルト定款ニ移讓スルトノ差アルノミ然レモ本官ハ寧ロ原案ヲ可トス其當坐勘定貸又ハ定期貸ヲ爲ス事ハ肝要ノ事ナルヲ以テ考フルモ但書ハ必ス掲ケサルヲ得サレハナリ若シ此項ニ置クヲ以テ体裁ヲ失ストナラハ寧ロ本條ノ始メニ於テ但書ヲ爲シ其金額及利子ノ割合ハ云々大藏卿ノ許可ヲ受クヘシトスルモ亦可ナリトス固ヨリ要用ナルヲ以テ決シテ削ルヘカラストス

○九番 津田眞道

但書ノ必用ナルハ内閣委員モ詳陳シ今十二番モ之ヲ切論セリ十九番ハ但書ハ無用ナリ其處分法ハ定款ニアリ之ヲ解スルニ支障ナシ強テ存置セント云フハ過慮ナリト云フ本官ハ然カラストス若シ夫レ定款ニ明文アルヲ以テ爰ニ掲ルヲ要セストナラハ豈

唯此但書ノミナランヤ第一項以下皆然リ更ニ極言スレハ本條例ノ綱目ト雖モ不用ト云ハサルヲ得ス只簡單ニ日本銀行ヲ創立スト云フテ足ラン蓋シ然カスル能ハサルモノハ今日ノ時勢人情ニ於テ不適當ナレハナリ法律上指定スルモノハ詳明ナルヲ至要トス

○番二番 加藤外濟

但書ハ實際置カサルヲ得ス例ヘハ公債證書ハ賣買上ニ於テモ一ノ相場トナルアリ爰ニ商人アリ其營業ニ從フアランカ公債證書ヲ抵當トシ貸金ヲ求ムルニ際シ世間ノ金利ハ一割五分ナルニ日本銀行ハ一割二分トスレハ陸續買來テ抵當借ヲ爲シ去テ買ヒ買ヒ來テ抵當トス此ノ如クニシテ止マスンハ其相場ヲ爲スノ商人ニハ利益アルモ正當ナル人民ニハ其反對ノ損失ヲ與フルノミナラス其弊害タル全國ニ及フヲ如何セン佛國銀行創立後嘗テ其弊ア

リシヲ以テ銀行ハ限ルニ資本全額ヲ以テセリト云フ彼ノ銀行ノ如キハ巨額ノ預リ金アルニ由リ資本ヲ盡シテ是ニ充ルヲ得ルモ我國ノ現状ニテハ此一事寂寥タルヲ以テ已ムヲ得ス此但書ヲ以テ時ニ應シ宜キニ隨ヒ其充用ニ制限ヲ立テ務メテ其相場ノ平均ヲ保チ全國理財ヲ調理セントスルナリ

○十二番 渡邊

内閣委員之ヲ辨シ九番議官之ヲ論シテ盡セシモ仍ホ

一言セン反對者ハ此但書ヲ定款ニ讓リテ條例ニ省カント云フ其不可ナル所以ハ舊ト條例アリテ定款アリ條例ハ本ナリ定款ハ末ナリ且ツ其効力モ法律ト同シカラス夫レ公債證書ヲ抵當トスルヤ銀行ニテハ利子ノ割合ヲ調度スル殊ニ大事ナリトス然ラスンハ此貸金ノ爲メ一十萬圓ノ資金ヲ盡スニ至ルヘシ何トナレハ公債證書ノ現

高ハ紙幣ヨリモ巨額ナリ故ニ大藏卿ハ其樞軸ヲ執リ能ク現状ヲ察知シテ指畫スルニアラスンハ恐ラクハ其事ニ害アラシク是レ熱心此但書ヲ存置セントスル所以ナリ若シ不幸ニシテ問題ニ決セハ本官

○ハ尙ホ之ヲ本條ノ割註トナサント欲スルナリ

○議長 現問題タル二十三番ノ修正說ハ分ツテ二類トス一ハ公債證書ノ下ニ政府發行ノ手形ノ七字ヲ加ルニアリ一ハ本項ノ但書ヲ全削スルニアリテ其論議モ自ラ兩派ナルカ如シ故ニ之ヲ分別シテ取決スルノ便宜ナルヲ知ル一應衆議ニ問シ其之ヲ二段ニ分ツテ取決スルニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十五人

○議長 多數ナルヲ以テ前後兩般トナシ取決スルニ決ス即チ前段政

府發行ノ手形」ノ七字ヲ加フル二十三番ノ修正説ニ同意者ハ起立ス
ヘシ

起立者十二人

○議長 多數ナルヲ以テ本項公債證書ノ下ニ「政府發行ノ手形」ノ七
字ヲ加ルニ決ス次テ二十三番修正説後段ノ決ヲ取ラン其但以下削
除スルニ同意者ハ起立スヘシ
起立者九人

○議長 少數ナルヲ以テ二十三番ノ但以下ヲ削除スルノ修正説ハ消
滅シ本案ニ決ス

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十一條

日本銀行ハ第十條ニ記載スル事業ノ外左ニ掲クル件々ハ勿論其他
諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ得ス

○議長 本條モ亦第十條ノ例ニ依リ一項毎ニ決ヲ取ラン先ツ本條ヲ
議セラレヨ

○二十五番 東久世 通禎 本官修正説アリ本條中ニ第十條ニ記載スル事業
ノ外ノ十二字ハ恐ラクハ衍文ナラン有テ其必要ヲ見ス無クンハ却
テ行文明晰ナリ之ヲ削除セント欲ス

○九番 津田 眞道 賛成ス二十五番ノ述ル數文字アルモ敢テ害ナク無キモ
可ナリ有無相等シケレハ無キヲ以テ優レリトス

○議長 二十五番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○十二番 渡邊 清 賛成

○二番^{神田} 本官ハ本案ヲ可トス問題説ノ如ク之ヲ削ル時ハ尙其下

ニ「其他諸般ノ營業ニ關涉スル」ヲ得ス「トアルヲ以テ第十條ニ掲
ル營業ヲモ禁スルヤノ嫌アリ全存スルニ如カサルナリ

○三十一番^{柴原} 本官モ問題ニ比スレハ原案ヲ可トス問題ノ如クス

ル時ハ直チニ「左ニ掲クル件々ハ」ト突出シテ誦讀ニモ便ナラス是
等ノ數字アルモ敢テ重複ノ嫌アルニアラサレハ削除ヲ要セサルナ

リ然リト雖モ原案ヲ以テ満足セシニアラサレハ本官ハ問題ノ孰レ
ニ決スルニ拘ラス意見ヲ提出セント欲ス向ニ内閣委員ノ言ニ工業

トハ鐵道敷設等ニ係ルモノヲ云ヒ營業トハ一般ノ商業ヲ云フトア
リ又説明書ニ依レハ其初メ第十一條ニ「日本銀行ハ第十條ニ記載ス
ル事業ノ外營業スルヲ許サス左ノ諸件ノ如キハ特ニ之ヲ嚴禁ス」ト

アリ又同條第四項ニ「地金銀賣買ヲ除クノ外諸般ノ商業ニ關涉スル
事」トアリテ文字ノ好惡ハ姑ク置キ其之ヲ分別スルニ第三項第四項
ヲ以テ工業ト商業トヲ限界セリ故ニ本官ハ本條ニ於テ諸般ノ「營
業」トアルヲ「工業」ト「商業」ト修正セントス又第三項ニ「直接間接ヲ問ハス」
トアリ直接間接ノ文字ハ法律上ニ於テ不慣熟ナルヲ以テ諸「工商
會社」ノ「株主」タルハ勿論「工商業」ニ關涉スル事トセントス

○九番^{津田} 本官ノ修正説ニ賛成セシハ澹泊水ノ如キ意ニシテ原案

ニテモ可ナリ問題ノ如クセハ仍ホ可ナリト思ヒタリシカ或説ニハ
問題ノ如クセハ解シ得サルモノアリト云フ本官ハ解釋ニ難ンスル

「ナシトス三十一番ハ問題ノ成否ニ拘ハラズ修正説ヲ提出シ工商
業ヲ以テ營業ニ換ヘント云ヘリ是又異論ナシ營業トアリシトテ諸

般ノ工商業ノ外ニ出テス工商業即チ營業ナレハナリ

○議長 三十一番ニ間フ問題説成立セハ更ニ修正説ヲ出スヘカラサルハ三十一番ノ知ル所ナラン

○三十一番 柴原和 議長ノ言ノ如シ但修正ノ箇所異ナルヲ以テ之ヲ陳セシナリ敢テ法則ニ從ハサランヤ

○議長 發議己ニ盡キタルヲ以テ決ヲ取ラン二十五番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ二十五番ノ修正説ハ消滅ス

○三十一番 柴原和 爰ニ前言ヲ繼キ「營業」ヲ工商業ト改作セントス本官モ固ヨリ九番ノ言ノ如ク思惟セシモ内閣委員ノ説モアリ要スル

ニ其事物ヲ丁寧ニ指示シ人民ヲシテ知リ易カラシメントスルナリ

○二十一番 楠本正隆 賛成

○議長 三十一番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○二番 神田孝平 本官ハ本案ヲ可トス營業ノ字意味廣ク工商業其内ニアリ問題ノ如ク工商業トセハ農業ハ爲シ得ヘキヤノ嫌アリ原案ニ如カサルナリ

○三十三番 渡邊洪基 本官モ本案ヲ可トス二番ノ説ノ如ク營業トハ特ニ工商業ニ止ルニアラス其他尙營業モアリテ病院設立ノ爲メ資本ヲ要スル等ノ事無シトセス是レ關涉スヘカラサルモノナルヘシ原案ノ營業トアルヲ好シトス

○議長 發議ナクンハ決ヲ取ラン三十一番ノ修正説ニ同意者ハ起立

スヘシ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ三十一番修正説ハ消滅ス他ニ發議ナクンハ
本案ノ決ヲ取ラン之ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二十二人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス引繼キ第一項ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第一 不動産及ヒ銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス

事

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ニ同意者ハ起立スヘシ
全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第二 本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此株券ノ買戻ヲ爲ス

事

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第三 諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係

スル事

○二十五番 東久世通禎 本項ヲ修正セント欲ス之ヲ二分スル時ハ即チ銀

行諸會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス其事業ニ關係スル事トセントス其故ハ是レ一ニ工業ノミニ拘ハラサルノ意ナレハナリ
説明書ニハ鐵道等ニ關涉スル時ハ之ニ偏倚スル云々トアリト雖モ
實際ヲ考フルハ必ス工業ノミニアラサルヘシ其係ル所ヲ廣メ他
日ノ便ヲ爲スニ如カサルナリ

○三十三番 渡邊 洪基 賛成

○二十三番 實作 麟祥 賛成

○十九番 大給 恒 賛成

○議長 二十五番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○二番 神田 孝平 修正說ノ如クンハ銀行ニ於テヨルレスポندان区ノ業ヲ成スモ能ハサル如シ其說理ヲ聞ン

○二十五番 東久世 通禧 是レ本銀行ノ業務ニアラス畢竟他ノ銀行事務ニ關係スルヲ禁スルナリ

○二番 神田 孝平 株主タルヲ得サルハ分明ナルモ事業ハ即チ其仕事ナリ之ヲモ禁スルヲ以テ本官ハ疑ヲ生シ満足セサル所アルナリ

○三十三番 渡邊 洪基 既ニ諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ禁ス銀行會社ノ事業ニ關涉スルヲ禁スルニ於テ又何ノ不可カララン此ノ禁アルヲ以テ第二條ニ明許セシヨルレスポندان区マテヲ止ムルト云フ

ノ謂レナシ彼我其分界ノアルヲ認メハ論者ノ疑團ハ自ラ解クヘシ

○二番 神田 孝平 修正ノ意略々了解セシト雖モ未タ疑ヲ免レス前後撞着スルノ惑アリ本官ハ寧ロ本案ヲ賛成スルニ如カストス

○外三番 男谷 忠友 銀行諸會社云々ノ修正說ニ對シ二番ノ駁論モアリ直

接間接ヲ間ハスト云ヘル義理ノアル所等閑ニ付シ難キモノアリ即チ他ノ銀行ト約定スルヨリ事業ニ關係スル事モアラン其間髪ヲ容レサルモノナリ二十五番辨明アリト雖モ尙其詳ナルヲ聞シ

○議長 番外三番ニ間フ日本銀行ヲ除クノ外其他銀行ノ株主トナルコトヲ許スノ意ナルヤ否ヤ

○番三番 男谷 第十一條ニ記載スルカ如クナラン

○番二番 加藤 第三項ノ意其大略ハ既ニ本條ニ掲ケタリト雖モ諸般

營業ハ實ニ千差萬別限リナシ中ニ就テ爲シ得ヘカラサルノ最ナルモノハ茲ニアリトシ特ニ其諸項ニ記セシナリ日本銀行營業ノ目的ハ第十條ニアリ其他ハ皆禁スル所ナリ別ニ本條アルモノハ自他ニ向テ禁止ノ意ヲ重示セシモノナリ

○九番 津田 問題說ハ二番ト内閣委員トノ辨駁セシ如ク到底其撞着

ヲ免レサルモノト信ス忌憚ナク放言セハ取留ナキモノニシテ殆ント本院ノ修正ト云フヘカラサルナリ

○三十三番 渡邊 甚哉論者ノ言ヲ爲ス爰ニ至ルヤ本銀行ノ他銀行ノ

株主タル能ハサルハ明カナリ然レハ農業會社ノ株主トナルヲ得ヘキカ是レ又能ハサル所ナラン況ンヤ商業ヲヤ然ルニ單ニ工業トノミ掲ル時ハ人アリ名ヲ他ノ業ヲ爲スニ籍リ其實工業資金ニ用ユルモ知ルヘカラス是レ其工業トアツテ他業ヲ見サルニ因ル夫レ本銀行ハ運轉活潑ノ業ヲ爲スノ精神ナレハ其目的ノ外ハ禁斷スル所ナルヘシ然レハ現問題ノ如ク銀行諸會社云々トシテ何ノ不可アラシヤ獨リ工業ノミヲ以テ責ル時ハ只其人ニ對シ關涉スヘカラサルヲ

示スニ止ル、ミナラス本條諸般ノ營業トアルニ撞着スルヲ如何セ

○三十一番 柴原和

現問題ノ銀行諸會社云々ノ修正ハ本官斷シテ本案ニ勝レリトス而シテ之ヲ賛成スルヲ得サルハ直接間接ノ文字依然存スルヲ以テナリ此文字ノ趣意ハ實ニ分析スル能ハサルモノニシテ工業ノミニ係リ此文字アルハ大ニ本條諸般ノ營業ト云フニ疑ヲ來スナリ故ニ本問題ノ前半ハ可トスルモ後半ヲ不可トス時機ヲ得ハ此說ヲ提出セントス

○番二番 加藤外

現問題タル銀行及諸會社云々ト上ニアリテ直接間接其事業ニ關涉云々ト下ニアリ之ヲ讀過スルニ銀行會社ト取引スル能ハサルカ如シ原案ハ止タ工業ニ關スル事ノミヲ禁セシニアリ外

國ニテハ銀行自ラ工事ヲ起シ製造場ヲ作ルアリ又ハ某會社ニ資本ヲ貸付シテ之ヲ成サシムルアリ是レ之ヲ直接間接ト云フナリ強テ工ノ字ニ嫌ヒアラハ止ヲ得スト雖モ修正シテ銀行會社ト取引スル事能ハサルニ至ツテハ實際支障アルヲ以テ深ク注意ヲ加ヘラレンコヲ望ム

○三十三番 渡邊洪基

問題ノ如ク修正スルモ「コルレスポندانズ」等ハ毫モ障碍ナシ若シ番外二番ノ說ノ如ク銀行會社ト云フヲ嫌ヒ之ヲ原案ノ如クスルモ同一ナリ何トナレハ工業會社ノ切手ナリトテ取引ヲ謝絶スルノ意ニアラサルヘシ況ンヤ本條例ノ明許スルアルヲヤ

○議長 發議已ニ盡キタルヲ認ルヲ以テ決ヲ取ラン二十五番ノ修正說ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者五人

○議長 少數ナルヲ以テ二十五番ノ修正説ハ消滅ス

○三十一番 柴原和 既ニ時機ニ後レタルモ一應内閣委員ニ質問セントス本項諸工業會社ノ株主タルヲ禁ストアリ他銀行ノ株主タルハ禁セサルカ

○外三番 男谷忠友 三十一番ノ問ニ答ヘン諸工業會社ト云ヘル中ニモ含ミ又本條諸般ノ營業ニ關涉スルヲ得ストアル内ニモ包藏セシモノナリ決シテ禁セサルニアラサルナリ

○三十一番 柴原和 目下内閣委員ノ答辨ニ銀行株主モ本項ノ内ニ入ルトアレハ二十五番ノ修正説前半銀行諸會社云々トアルハ好修正ナリトス何トナレハ諸工業會社トアル中ニ銀行株主ノ如キモノモ包

括スルトハ吾人ト俱ニ解スル能ハサルヘシ況ンヤ事柄ノ本條諸般ノ營業トアル中ニ含有スト云フノ分明ナラサルヲヤ畢竟諸工業會社ノ株主ト云フト營業トハ差違ナキ能ハサルモノトス故ニ二十五番ノ修正前半ヲ撮取シ第三項ヲ修正シテ銀行又ハ諸會社ノ株主タル事トセントス

○九番 津田眞道 賛成ス三十一番ハ二十五番ノ説ヲ撮取スト云フモ是レ謙辭ナリ其實善良ノ修正ニシテ他ニ撞着モナク文義明達前問題ノ比ニアラス内閣委員ハ工業會社ト云ヘル中ニ銀行モアリト云ヒシカ千萬其意ヲ得サルナリ原案單ニ諸會社トアラハ格別ナルモ個ハ是レ工業ノ二字アリ焉ソ銀行株主タルモ此内ニアリト云フヲ得ンヤ

○議長 三十一番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題トナス

○外三番男谷忠友 九番ノ説ハ恐ラクハ本員ノ説ヲ誤聞セシナラン本員

ハ三十一番ノ問ハ工業會社中ニ銀行モアリヤトノ問ニ應シ會社ノ内ニアリ故ニ爰ニ禁シ尙ホ本條諸般ノ營業トアルニモ禁シアリト云ヒタルノ意思ナリキ

○二十三番築作麟祥 本官ハ原案ヲ可トス發議者ノ着意其理ナキニ非ス

ト雖モ内閣委員ノ説明モ亦本案ノ精神ニアラサラン此工業ト云フハ築港整溝等ニ係ル大工業ナルヘシ且ツ本條ハ本案中ニ就テ最モ其重著ナルモノヲ列掲シ此項ノ此中ニアルハ凡ソ工事ハ巨資ヲ要シ動モスレハ銀行者爰ニ偏倚シ易キヲ以テ特ニ警戒ヲ加ヘシナリ銀行株主ノ事固ヨリ禁止ナルヘキモ本項諸工業會社トアルハ即工

業會社ニシテ銀行ノ謂ヒニアラサルヘシ又直接間接ノ事タル聊カ不穩ナリト雖モ敢テ解スヘカラスト云フニアラサレハ之ヲ存在スルモ妨ケナシトス

○十七番鍋島直彬 内閣委員ノ説明ニ對シ疑點アリ之ヲ問ントセシニ二

十三番早ク茲ニ見ルアリテ其説ヲ述フ果シテ其言ノ如キヤ番外三番ノ説ニ工業會社ノ内ニ銀行ヲ含メリト云フハ解セサルモ是ハ暫ク置キ本條諸般ノ營業トアルハ諸般ノ營業ニシテ工業會社ハ之ト別物ニスルカ

○外二番加藤濟 第十一條第三項ノ諸工業會社ノ中ニ銀行モ包有スト

云フ説アリトシテ質問アリ此會社中ニハ銀行ハ入ラサルモノト認ムヘシ尙ニ薄カ辨陳セシ如ク既ニ第十條ト第十一條トハ反對表裏

ヲナシ第十條ハ銀行ノ爲スヘキ營業ヲ舉ケ第十一條ハ爲シ能ハサル事件ヲ示ス而シテ商業上ノ事ヲ掲クル時ハ百ヲ以テスルモ未タ足レリトセス是等ハ第十一條諸般ノ營業ノ文字ニテ一括セシモノナリ其四項ヲ列載セシノ意ハ二十三番ノ說ノ如ク其重著ナルモノヲ特示セシモノナリ

○九番 津田眞道

銀行ハ工業會社中ニアラストノ說ハ領解セリ問題說ハ銀行ノ字ヲ加フルモノナレハ殊ニ分明ナリ本條ニ諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ禁セシニモ拘ハラズ其重要ナルモノナリト云フヲ以テ項ヲ設ケテ更ニ掲ケタルノ例ニ依レハ銀行ノ如キ最モ重要ナレハ特載スル甚タ可ナリ

○二番 神田孝平

衆說ヲ聞ヲ得テ益々三十一番修正說ノ是ナルヲ信ス内

閣委員ノ言ニ銀行ノ事ハ第十一條諸般營業ノ文字中ニアリト云フハ信據シ難シ近ク譬ヘテ取ラハ官吏タルモノ鐵道ノ株主タルコトハ得ヘキモ其營業ニ從事スルコト能ハサルニアラストヤ夫レ然リ營業ト株主ト異ナルコトハ昭々トシテ明カナリ而ルニ其營業ハ禁セラル、モ株主タルニ於テ妨ナシトセントスルハ本案ノ精神ニアラサルヘシ故ニ本項ニ銀行ノ文字アルハ當ニ可ナルノミナラス寔ニ必用ナリトス

○三十三番 渡邊洪基

三十一番ノ修正說ハ嘗テ二十五番カ提出セシ修正ノ前半ヲ取リシモノナルヲ以テ未タ其弊ヲ免レス即チ株主トナルハ直接ノ關係ナリ株主ニアラスト雖モ之ニ關涉スルコトアリ譬ヘハ一銀行アリ工業會社ニ資金ヲ貸與シテ工事ヲ起サシメ或ハ北海道

開拓ニ關與シ或ハ米商會社ニ荷擔シ或ハ何會何社ト資本ヲ他ノ業務ニ用フル時ハ其本色タル割引貸附ノ專務ニ怠リ自然商業ノ融通ヲ妨クヘシ本條掲ル所ハ數項ニ過キスト雖モ他ニ類似ノ業務固ヨリ多シ故ニ本官ハ株主タルノミナラス其關係スル事ヲモ防制スルニアラサレハ本案ノ望ミニ合ハサルモノトス現問題ノ如クンハ人ノ一身ニシテ頭脚全タカラサルモノニ似タリ之レ不可トスル所以ナリ

○三十一番 柴原和

三十三番ハ問題說ノ如クンハ頭足不具ナリト云フ

本官意ラク前問題後半ノ如キハ贅文字ナリト是レ人ニシテ四脚アルニ似タルモノナリ今ヤ本官ハ之ヲ一頭兩脚トセシナリ三十三番ハ株主タルコトハ直接ナリト云フ然ラハ本案ハ單ニ間接ノ關係ノミ

アリテ足ラン又其間接ノ關係ト云フ事モ本條諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ得ストアレハ更ニ再言ヲ要セサルヘシ或ハ云ク問題說ノ如クンハ日本銀行ハ他會社ノ株主タラサルヲ以テ直接ニハ之ヲセサルモ間接ニ金ヲ出シテ米相場ヲナス等ノコトアランモ知ル可カラスト若シ本銀行ニシテ此ノ如キ動作アラハ是又相場師ノミ世ノ信用ヲ如何セシテ然ル事ナキヲ保ス況ンヤ是等ハ皆諸般ノ營業ノ中ニ入ルヘキモノト信スルニ於テヲヤ

○十七番 鍋島直彬

本官ハ三十一番ノ修正說ヲ贊成ス何トナレハ本條ニ

於テ左ニ掲クル件々ハ勿論トアリ勿論ノ字タル言ヲ俟タスシテ知ルモノト云フノ義ナレハ銀行株主タルコトノ如キハ其重要タルモノハ明カニ掲クルニ如カサルナリ諸般ノ營業ノ中ニ銀行アリトスル

ノ説ハ未タ其可ナルヲ知ラス但直接間接ニ他ノ業ニ關係スルコトハ諸般ノ營業中ニアリト認ルモ敢テ不可ナシ之ヲ刪ルハ可ナリ

○議長 討議盡キタリト信スルヲ以テ決ヲ取ラン三十一番ノ修正説

○ニ同意者ハ起立スヘシ
起立者六人

○議長 少數ナルヲ以テ三十一番ノ修正説ハ消滅ス引續キ本案ノ決ヲ取ラン之ニ同意者ハ起立スヘシ
起立者十九人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

○番一 山尾 三 午後モ引續キ開會セラレンコトヲ望ム

○議長 時正午ヲ過ルヲ以テ午飯ノ爲メ暫時退場シ午後引續キ開會

セントス散會セヨ

午後第一時閉場

午後第一時四十分開場

退席 十九番 大給 恒

○議長 午前ノ續會ヲ開ク即チ第十一條第四項ヨリス書記官朗讀ノ後發議セララルヘシ

書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第四 本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動産ノ所有主タル事

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十二條

政府ノ都合ニ由リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヒニ從事セシムヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十三條

日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但此銀行券ヲ發行セ

シムル時ハ別段ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スル者トス

○十七番 鍋島 直彬 本條趣意ニ異存ナキモ文字上ニ修正アリ之ヲ通讀ス

ルニ首尾相結ハス是レ他ナシ主格ノ法正シカラサルヲ以テナリ本
官ハ但此銀行券ヲ發行セシムル時ハ別段云々ヲ但此銀行券ヲ發
行スル時ハ政府ニ於テ別段ノ云々トセントス賛成者ヲ得テ問題ト
ナルヲ得ハ幸ナリ

○三十二番 鍋島 幹 賛成

○議長 十七番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○十六番 伊丹 重賢 賛成

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン十七番ノ修正說ニ同意者ハ起立

スヘシ

起立者九人

○議長 少数ナルヲ以テ十七番ノ修正説ハ消滅ス即チ本案ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長 多数ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十四條

日本銀行ハ諸手形切手ヲ作ルヲ得ヘシ

○二十三番 箕作麟祥 本條字句ノ修正アリ即チ日本銀行ハ云々切手ヲ作ルヲ得ヘシトアリ他條ヲ參觀スルニ多クハ發行トアリ蓋シ作テ後

ニ發行スルニアルヘキモ慣熟ノ便ナルニ如カサルヲ以テ「作」ノ字

ニ換ユルニ發行スノ三字ヲ以テセントス

○十二番 渡邊清 賛成

○議長 二十三番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題トナス

○三十三番 渡邊洪基 賛成

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン二十三番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二十人

○議長 多数ナルヲ以テ二十三番ノ修正説ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十五條

日本銀行ハ公債證書ヲ買入又ハ之ヲ賣拂フコトヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ大藏卿ノ許可ヲ得ヘキモノトス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ニ同意者ハ起立スヘシ
起立者二十一人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

○書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十六條

日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ綜理スル者トス此
外ニ監事三人乃至五人ヲ置クヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ニ同意者ハ起立スヘシ
起立者二十一人

○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十七條

總裁副總裁ハ任期五ケ年トシ總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トス但任期
中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス

○十七番 鍋島直彬 本官ハ此條但以下ハ無用ノ文字ナリト認ルヲ以テ削

除セントス何トナレハ勅奏任ノ拜受ハ固ヨリ天皇陛下ノ命ヲ受ル

所ニシテ本條例モ亦勅旨ヲ奉シテ布告スルモノナリ然ルニ他ノ官
職ヲ兼任スルヲ得スト禁止ノ語ヲ用ユルハ不可ナリ或ハ法律ヲ出

シ民ト共ニ之ヲ守ルト云フ自戒ノ爲メニスル外國ノ憲法ニハアル
ヘキモ今日日本銀行條例ニ此但書アルハ不穩當ナリトス敢テ云フ

本官其兼任スルヲ是トスルニアラス其身已ニ勅奏任官ナレハ之ヲ得ルモ得サルモ止タ勅命ニアリトスルナリ

○二番 神田 孝平 賛成

○議長 十七番ノ本條但以下刪除説ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○外二番 加藤 濟 十七番ノ但書削除論問題トナルヲ以テ一言原案ヲ維持セントス總裁副總裁ハ勅奏任ナレハ但書ヲ要セスト云フ一理ナ

キニアラスト雖モ若シ此文字ヲ但書ニ掲ケサル時ハ總裁副總裁ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ルモノト解スルモノアルモ知ルヘカラス果シテ然ラハ實際ニ障害アリ夫レ總裁ノ職ノ如キハ銀行百般ノ事務ヲ總理シ其關係ノ重大ニシテ繁劇ナル寸時モ間ヲ得サルヘシ是ヲ以テ歐洲各國皆此ノ如クナラサルハナシ若シ之ニ反シ修正説ノ

如クンハ体裁上業務上兩ヲ其宜シキヲ得サルナリ

○十七番 鍋島 直彬 既ニ述ヘシ如ク本官敢テ兼任ヲ是認セシニアラス唯

謂フ自ヲ爲スヘカラサルハ無論兼任ハ勅命ニアリ内閣委員ト雖モ已レ自ヲ兼任スル者ナキヲ知ラン已ニ之ヲ知ラハ聖天子親シク命シ給ハサレハ可ナルノミ豈此ノ如キ文字ヲ要センヤ

○十八番 九鬼 隆一 十七番ト内閣委員トノ論辨ヲ聽クニ十七番ハ兼任ヲ

可トスルニアラス兼任モ勅命ナレハ此ニ掲載スルヲ須ヒストノ意ノ如シ本官モ亦勅命ニアラサレハ其成リ難キヲ知ル然レトモ此事ヲ法律上ニ明記スルモノハ獨リ總裁其人ヲシテ豫メ之ヲ知ラシムルノミニアラス兼テ公衆ヘ豫告スルニ本銀行總裁ノ職ハ此ノ如ク重任ニシテ其業繁務ナリト云フコトヲ感覺セシムルノ精神ナラン仍

テ本案ヲ可トス

○九番津田眞道 本官モ原按ヲ可トス十七番ノ言一理ナキニアラサルモ已ニ十八番モ演ル如ク其兼任スル能ハサルヲ初メヨリ知得スルハ更ニ障礙ナキノミナラス此ノ如クナラサルヘカラサルコアリ法律ニ掲載スルハ此ニ始ルト雖モ國家憲法制定ノ日ニ會セハ此事ハ必ス多カラシク曰ク裁判官ハ行政官ヲ兼任スヘカラス立法官亦同シ今日ハ議官ニシテ行政官ヲ兼ヌルアルモ後ニハ之ヲ見サルニ至ラン猶彼ノ沖繩縣令ニシテ檢事ヲ兼ヌルモ他ノ縣令ハ之ヲ兼テサルカ如シ

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取ラン十七番ノ修正說ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二人

○議長 十七番ノ修正說ハ少數ナルヲ以テ消滅ス

○三十四番三浦安 本官文字ノ修正說アリ勅任官ハ聖慮ニ成ルモノナリ本條兼任スルヲ得ストアリ得スト云フハ自己之ヲ隨意ニスルヤノ嫌アリ故ニ修正シテ兼任セシメストセントス果シテ然ラハ信仰モ愈々厚ク意味モ益々明カナルナリ

○十六番伊丹重賢 賛成ス本條兼任スルヲ得ストアルヲ以テ已ニ十七番ノ顧慮スル如キコアリ敢テ謂レナキニアラスト雖モ一毫塗抹シ去ルモ亦本官ノ意ニアラス三十四番ノ修正說ハ我カ意ヲ得タリトス

○議長 三十四番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○三十三番渡邊洪基 原案ニテ可ナリ修正說ノ如クンハ更ニ其要領ヲ得

ス畢竟但以下ハ公衆一般ト總裁其人トニ對シ總裁ハ職任重ク事繁劇ナルニ由リ他ノ官職ヲ兼任セス專ラカヲ此ニ效スヘキモノタルヲ豫知セシムルナリ得サルモノトスト云フト其意異ナルコトナキナリ

○三十四番 三浦安 三十三番ノ言ニ依レハ得スト云ヒセシメスト云フモ意同シト云フカ如シ蓋シ得ト云フハ自己ヨリスルノ意ニシテセシメスト云フハ他ヨリ命スルノ語ナリ特ニ此一事ハ勅命ナレハ修正ノ如クナランヲ要ス

○九番 津田真道 本案ヲ可トス發議者ハ固ク執テ修正ヲ要スルモ若シ得スラセシメスニ改作スル時ハ最モ其不可ナルヲ覺フ何トナレハ本條ハ總裁ノ身分ヲ定メタルモノニモ拘ハラス此法律ヨリ聖天子ニ

對シ奉リ總裁ヲ兼任セシムル勿レト制止スルニ等シ不穩當ノ修正ト謂ツヘシ

○議長 討論已ニ盡キタルヲ以テ決ヲ取ラン三十四番ノ修正說ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ三十四番ノ修正說ハ消滅ス本案ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十八人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十八條 理事ハ株主總會ニ於テ撰舉シ大藏卿ノ命スル者トス但

創立第一回ハ五ヶ年ノ任期ヲ以テ大藏卿之ヲ特命スヘシ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ撰舉シ理事監事ノ任期ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

○二十五番 東久世通禧 本官字句ノ修正アリ豫テ議長机下ニ提供セリ書記官ノ朗讀ヲ煩サン

書記官 森山茂 左ノ修正按ヲ朗讀ス

理事ハ株主總會ニ於テ十五株以上所有スル株主中ヨリ之ヲ撰舉シ大藏卿ノ命スル者トス但創立第一回ハ五ヶ年ノ任期ヲ以テ大藏卿之ヲ命スヘシ監事ハ株主總會ニ於テ十株以上所有スル株主中ヨリ之ヲ撰舉スヘシ但理事監事ノ任期ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

○二十五番 東久世通禧 今朗讀アリシ如ク本修正ハ意味ニ殊異ナク止タ

文義ヲ明確ナラシムルニアリ願クハ賛成者ヲ得テ問題トナラシム

○十七番 鍋島直彬 二十五番ノ修正說ハ文理順序アリ意義開達スルヲ以テ之ヲ賛成ス

○議長 二十五番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○三十一番 柴原和 二十五番ノ修正ハ長文ナルヲ以テ悉ク暗記セサルモ原按ハ大藏卿特命スヘシトアリテ修正說ニハ特ノ字ナキニ似タリ知ラス特ノ字ナキモ大藏卿之ヲ命スル精神ナリヤ

○二十五番 東久世通禧 個ハ元來綱領タル條例ナレハ但書トシテ本條ヨリ取除ケ法ニセシモノナリ特ノ字ナキモ固ヨリ原按ト同義ナリ

○三十一番 柴原和 但書ハ本條中別項ニ爲スニアルカ

○二十五番東久世通稱 否原案ニ之レアルモ理事監事ノ間ニアリテ甚タ

混雜ナルヲ以テ但ノ字ヲ以テ之ヲ別ニセシニアリ

○九番津田真道 此條モ亦本案ヲ可トス之ヲ特命スヘシトアレハ株主ノ

撰擧ヲ用ヒス大藏卿ノ特權ヲ以テ之ヲ命スルナリ修正ノ如クナレ

ハ其意自ラ本案ニ異ナレリ創業ノ際ノコナレハ原案ノ如クナラサ

ルヲ得サルナリ

○議長 發議已ニ盡キタルヲ以テ決ヲ取ラシ二十五番ノ修正說ニ同

意者ハ起立スヘシ

起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ二十五番ノ修正說ハ消滅ス本案ニ同意者ハ

起立スヘシ

起立者二十人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十九條

理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラシ本案ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二十一人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第二十條

大藏卿ハ特ニ監理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシ

ムヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本按ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第二十一條

日本銀行ハ本支店出張所及約定店等ノ營業上百般ノ景況ヲ調査シ少クモ毎月一回之ヲ大藏卿ヘ報告ス可シ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二十一人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第二十二條

日本銀行ハ本條例ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作り政府ノ許可ヲ受クヘシ但定款ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スル時ハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受ク可シ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第二十三條

政府ハ銀行諸般ノ業務ヲ監督スルノ權ヲ有ス其營業上條例定款ニ

背戻スル事ハ勿論政府ニ於テ不利ト認ル事件ハ之ヲ制止スヘシ

○二十六番 榎村正直 本官修正説アリ本條「政府」ノ下ニ「日本」ノ二字ヲ加ヘ政府ハ日本銀行云々トシ他ノ條ト其体裁ヲ同ワセシメ又業務ヲ監督」ノ下ニアル「スル」ノ權ヲ有ス」ノ七字ヲ削リ之ニ換ユルニシノ一字ヲ以テシ即チ其業務ヲ監督シ其營業上云々トセン是レ其文字ナキモ政府其權ヲ有スルハ勿論ナレハ稍其圭角ヲ免カレ温雅ニ就クモノナルカ爲メナリ又「政府」ニ於テ不利ト認ル云々「トアル」ニ於テ「ノ三字ヲ削リ換ユルニ」ノ一字ヲ以テセン是レ他意アルニアラス其不利ト認ル所ヲ端的直指スルニアルナリ

○三十一番 柴原和 賛成ス日本ノ二字ヲ加ヘントスルハ内閣委員モ己ニ是認スル所ニシテ修正其當ヲ得タリ又權ヲ有スルノ字ハ有テ益

ナキノミナラス有レハ却テ其權ノ輕ニ失スルヲ知ル何トナレハ第十三條ニ「日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス」トアリテ匹等同看ノ嫌ナキ能ハス且政府本銀行ニ對スルノ權一ニ此ニ止マルニアラス何ソ故ヲニ監督ニ「ミ此權アルヲ示スヲ須シ又「政府」ニ於テ不利ト認ル云々其關ル所執レニアルヤ明瞭ナラサルヲ以テ内閣委員ニ問ヒシニ其不利ハ銀行ノ不利ニアラスシテ政府ノ不利ナリト答ヘアリ因テ本官モ二十六番ノ如ク修正セント欲セシニ恰モ好シ此提出ニ遇フ賛成セサラント欲スルモ得ヘカラサルナリ

○十八番 九鬼隆一 賛成

○三十四番 三浦安 賛成

○三十三番 箕作 麟祥 賛成

○二十三番 野村 素介 賛成

○議長 二十六番ノ修正説ハ多數ノ賛成者アルヲ以テ問題トス

○三十三番 渡邊 洪基 本官ハ大抵原按ヲ可トス本條冒頭ニ「政府ハ銀行諸

般ノ」トシテ以下ノ文ヲ起セリ故ニ日本ノ字ナキモ之ヲ解得スルニ

於テ何カアラシク況ンヤ前條ニ「云々銀行定款ヲ作り云々」ハ日本ノ

字ヲ要スルニ切ナルノ場所ナルニモ拘ハラズ冠詞ナクシテ單ニ銀

行ト呼來テ妨ケナキニ於テ「又」政府ニ於テ「トアルヲ」トセン

トハ尤モ不可ナリ原案不利ノ係ル所ハ政府ノ爲メ世間ノ爲メ銀行

ノ爲メ其不利ト認ル事ハ凡テ之ヲ制止スルノ意ニシテ政府ノ一邊

ニ拘束セシモノニアラサルナリ但監督ノ下「スルノ權ヲ有ス」ノ七字

ヲ除キシノ一字ヲ加フルハ間然ナキヲ以テ之ニ同意ス

○三十一番 柴原 和 本官モ問題ノ賛成者ナリ三十三番ハ日本ノ字ナク

シテ可ナリト云フニ第二十二條ノ例ヲ以テセリ是ハ冒頭ニ日本銀

行ハノ文字アレハ其重複ヲ厭ヒシ爲メナリ是レ文章用字ノ法ニシ

テ往々見ル所ナラスヤ反對者之ヲ以テ本條ニ日本ノ字ナクシテ可

ナリトスルニ引證セシヲ以テ本官モ其例ニ倣ヒナカルヘカラスト

云フニ第二十條ヲ以テ證セントス同條ニ曰ク「大藏卿ハ云々日本銀

行ニ云々」ト三十三番ハ何ソ其一ヲ知ルニ敏ニシテ其二ヲ曉ルニ迂

ナルヤ本官ハ文ノ一字ヲ求ムルヨリ問題ノ如クナランヲ要スルナ

リ又政府ノ下「ニ於テ」ヲノトスルノ説ニ對セシ駁論ヲ聽クモ内閣

委員ノ説ヲ信セハ政府ハ監督ノ權ヲ有スルヲ以テ條例定款ニ背戾

スルカ又ハ政府ノ不都合トナル時ハ制止スルノ權ヲ有スト云ヘリ
即チ假リニ一例ヲ舉ケテ云ハ、即チ公債証書ヲ取引スルカ如キ其
取扱上ヨリ大ヒニ高低ヲ來シ財政上政府ノ不利ナル場合多カラシ
是等ヲ熟慮スル時ハ修正ノ如クナルヲ以テ其意ヲ得タリトス

○九番津田真道

本條ニ「日本」ノ字ヲ加フルト「權ヲ有ス」等ノ字ヲ削リ換
ユルニシ。一字ヲ以テスルノ修正說ハ可ナリト雖モ政府ノ下ニ於
テ「三字ヲ」ニ換ユルノ修正說ハ本官モ反對ナリ内閣委員ノ說ナ
リトシテ不利トスルヲ政府ノ一方ニ歸セントスルモ本官ハ得テ信
スル能ハス讀テ字ノ如ク解スレハ日本銀行ニテハ之ヲ利トスルモ
政府之ヲ不利ト認メハ政府ハ之ヲ制止スルノ意ナリ強テ政府ノ不
利ト讀マシムルモ如何セン事ニ於テ此ノ如クスルコトヲ得サルヲ内

閣委員モ三人アリ同心一体ト云フモ或ハ少差ナキ能ハサラン況ン
ヤ其起草ノ三人ノ手ニ成ルニ限ラサルニ於テヲヤ是レ内閣委員ト
雖モ異同ナキ能ハサル所ナリ故ニ本官ハ斷シテ云フ日本銀行ハ利
益ト認ムルモ政府ニ於テ不利ト認メ兩方意見ヲ異ニスル時ハ政府
ハ權重シ勝ツテ之ヲ制止スルノ意ナリト焉。ソノ字ヲ以テ「ニ於テ」
字ニ換ユルコトヲ得ンヤ

○二番神田孝平

本問題說ハ三點ノ修正ナリ初點ノ日本ノ字ヲ加フルハ
本官ハ之ヲ是トス第二點タル「スル」ノ權ヲ有ス「ヲ削リシトスル」
說ト第三點タル「ニ於テ」ヲ削リノニ換ユルノ說トハ原案ヲ可トス
「監督スル」ノ權ヲ有ス「トアル」ハ何時ニテモ之ヲ監督スルヲ得ルノ意
ニシテ修正說ノ如ク監督シトスル時ハ且暮間斷ナク監督セサルヲ

得サル事トナルヘシ是レ豈原案ノ意ナランヤ本官ハ其要用ナル時
監督スルノ權ヲ有スルモノト認ムルヲ以テ之ヲ改ルナキヲ是ナリ
トス第三點ノ如キハ各位ノ論難シテ泄サルアリ本官又之ヲ賛セ
サルナリ

○三十三番 渡邊 洪基 政府ハ「下ニ日本」ノ二字ヲ加ルヲ要セストノ説
ハ本官固ク執ラサルモ監督シ云々ノ修正説ノ如キハ本官ハ深ク是
認スル所ナリ政府タルモノ始終意ヲ銀行事務ニ留メ之ヲ監督シ之
ヲ制止スルハ當然ノ事ニシテ從前ヨリ法律上此ノ如キ文字アルヲ
見ス殊更ニ之ヲ記載スルモ何ノ効用カ之レアラン修正説ノ如ク加
除スルヲ可トス

○十七番 鍋島 直彬 本官ハ日本ノ字ヲ加ヘ又監督シ云々ト修正スルノ説

ニ同意ナリ特リ最後ノ一點ハ果シテ二十六番ノ言ノ如クハ修正
説ヲ可トセント欲スルモ未タ其歸着スル所ヲ知ラス其不利ハ專ラ
政府ニ係ルモノカ將タ銀行營業上ニアルカ抑又一般ヘ對スルノ不
利ナルカ内閣委員ノ確説ヲ取り我カ去就ヲトセントス

○議長 内閣委員ニ問フ定款第八十八條ニ政府ノ不利若シクハ云々
トアルト本條ノ不利トアルトハ意味異ナリヤ辨明アラハ自ラ發輝
スヘシ

○外二番 加藤 濟 第二十三條ニ對シ諸説紛々タリト雖モ要スルニ日本
ノ二字ヲ冠セシムルト權ヲ有スル數字ヲ省クトハ熱心ニ辨護ヲ要
セスト雖モ獨リ政府ニ於テヲ政府ノト修正セントスルノ説ニ對シ
テハ一言以テ原按ヲ保持セサルヲ得ス蓋シ此事タル表面ヨリ看來

レハ有ルモ無キモ強テ本條例ノ得喪ニ關ハラサルカ如シ然リ而シテ特ニ之ヲ要用トスルノ精神ハ他ナシ我國未タ規則法律ノ全備セシニアラス各般事業ノ習熟セシニアラス日本銀行ノ如キハ最モ創業ニ屬スルヲ以テ實際處務上往々取捨増損セサルヲ得サルヘシ故ニ施政上ノ活路トシテ爰ニ此一方ヲ開キ政府ノ爲メノミナラス一般ノ爲メ不利ナリトスル事アル時モ之ヲ制止スルノ目的ナリ請フ是ヲ領セラレンコトヲ

○十六番 伊丹重賢

本官ハ問題タル日本ノ字ヲ加ルト權ヲ有スル等ヲ削ルノ修正說ニ同意ナリト雖モ「ニ於テ」ヲノトスルハ疑惑ナキニアラサリシカ今番外二番ノ説明ヲ聞クニ政府ノミノ不利ニアラス汎ク關ル所ノ不利ナリト云フ果シテ然ラハ原案ノ如ク之ヲ存シテ可

ナリ願クハ現問題ヲ三段ニ分裁シテ取決セラレンコトヲ要ス

○三十一番 柴原和

向ニ本官ハ此條ヲ通讀セシニ政府ノ字重複スルヲ以テ別席ニ於テ其由縁ヲ番外一番ニ問ヒシニ後ノ政府ハ政府ノ不利トナル事ヲ云フカ爲メニ之レアリト云ヘリ然ルニ九番ノ言ニ原案ノ起草ハ委員三名ノミニ限ラサルヘシ時トシテハ意ヲ同フセサル事無キニアラサルヘシト云フ今ヤ番外二番ハ本場ニ於テ内閣委員ノ職任ヲ以テ堂々論出セリ夫レ是ニ從ハン歟定款第八十八條ニアル如ク政府ノ不利トシテ其區域ヲ固守シ敢テ他ニ馳驅セサルヲ好トスルヲ以テ依然二十六番ノ修正說ヲ贊成ス

○十七番 鍋島直彬

内閣委員ハ不利ノ字ニ對シ説明アリ恐ラクハ發議者タル二十六番ト雖モ或ハ原案修正是非分別ノ間ニ彷徨スルナラン

況ンヤ其賛成タルモノヲヤ本官ハ政府ノミノ不利ナリトノ答辨ヲ得ハ賛成スルニアルモ拘ハル所政府ノミニアラスト云フヲ以テ二十六番ノ説自然消滅セハ本官ハ「政府ニ於テ」ノ文字ヲ除キ加ルニ「事件ハ勿論其不利ト云々」ノ修正説ヲ提出セントス

○一番 本田親雄 本官ハ別段ノ建議ヲナス現問題タル分レテ三個トナル第一第二ノ修正ニ同意ニシテ第三ニ不同意者アリ此ノ如キ場合ニ於テ其説ヲ分段シテ取決スルハ往々其例アリ願クハ其例ニ依テ取決セラレンコトヲ望ム

○十二番 渡邊清 賛成

○議長 今一番ヨリ分割シテ取決スルノ建議アリ向ニ已ニ二十六番ヨリモ建議アリ衆議ニ問フテ之ヲ決セン

○二十六番 榎村正直 本官提出セシ問題中政府ニ於テ云々ニ就キ九番ヨ

リ二十六番ハ内閣委員ニ問ヒタレハ云々ト云ヘリ本官ハ公然質疑セシニアラス休憩ノ時間ヒシ事アルモ茲ニ之ヲ言ハス恐ラクハ三十一番ノ言ニ混セシナラン本官ハ政府ノ不利ト解セシモ尙ホ意ヲ用ヒ問ヒタルニ果シテ本官ノ意ト同シ是ヲ以テ然カク提出セシモ一般ニ係ル不利ナレハ穩當ヲ缺クカ如シ内閣委員ノ言前後合ハサルカ如キハ姑ク措キ眼前内閣委員ノ説明ノ如クンハ判然一般ニ關スル事ナルヲ知ル依テ一番建議ノ如ク問題ヲ三分シテ取決セラレシトヲ望ム

○外三番 男谷忠友 政府ニ於テノ事項ニ付キ三十一番ハ内閣委員ハ云々ト謂ヘリトノ説ヲ聞キ奇怪ノ思ヒアリシカ其事タルヤ議場外ニ在

テノ便宜問答タルニ過キサレハ全ク言語聽取ノ間ニ錯誤アリシナ
ラン其正誤ノ若キハ番外二番ノ言アリ各位ノ認メラル、所タリ請
フ政府ノトシテ一般ノ感觸ヲシテ厭忌セシムル無カラシコトヲ欲
ス

○九番 津田 眞道 原案政府ニ於テノ文義本官見ル所ト内閣委員ノ述ル所

ト其趣キヲ同フセリ而シテ其差異ヲ生セシ因縁モ今ヤ明白ナリニ
十六番ハ過ヲ改ムルニ吝ナラス公明正大ノ心ヲ以テ分段シテ取決
スルニ同意セリ既ニ議場ノ問題タル上ハ已ヲ得ス此ノ如ク爲サ、
ルヘカラサルナリ

○議長 試ニ内閣委員ニ問フ定款ニ政府ノ不利トアルハ改正スルノ
意ナリヤ

○外二番 加藤 濟 定款ノ本條例ニ於ル往々趣キヲ異ニセリ條例ハ議ヲ

經テ多少變換アルモ定款ハ初刷ニシテ未タ再訂セス固ヨリ参照ノ
爲メ提供セシニ過キササルモノナリ

○議長 銀行ノ損失ニ拘ハルモノモ又其不利ノ内ナルヤ

○外二番 加藤 濟 銀行内外ノ作業ニ論ナク商業上財政上ニ於テ不利ト

認ル時ハ制止スルニアリテ畢竟實業ノ便利ト施政ノ活路ヲ設クル
ニアリ故ニ修正ノ前段ノ二ハ格別ナルモ後段ハ原案ノ如クナラン
コトヲ望ム

○議長 一番ヨリ特別ノ建議アリ現問題ヲ三分シテ一段毎ニ取決セ
ンコトヲ望メリ此ノ建議說ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二十人

○議長 多數ナルヲ以テ分段シテ取決スルニ決ス其第一段日本ノ字ヲ加フルニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二十一人

○議長 多數ナルヲ以テ本條「政府ハ」ノ下ニ「日本」ノ字ヲ加フルニ決ス續テ其第二段「スル」ノ權ヲ有ス「ノ」字ヲ削リシノ一字ヲ加フルニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二十人

○議長 多數ナルヲ以テ「スル」ノ權ヲ有ス「ノ」七字ヲ削リシノ一字ヲ加フルニ決ス

○十二番 渡邊清 前二段ノ修正說已ニ可決シ今ヤ後一段ニ及ハントス爰ニ一言セントスルモノハ「政府ハ云々監督シ」トシテ更ニ「政府ニ

於テ云々」トアル時ハ文章ノ體ヲ得ス結局「政府ニ於テ」ノ五文字ハ其用ナキヲ知ルニ由リ向ニ十七番カ豫述セシ修正說ニ同意セントス望ムヲクハ姑ク此ノ取決ヲ止メ十七番修正說提出ノ後ニ決セラレンコトヲ

○議長 現問題タルヤ疾ク分段シテ取決スルニ決シ已ニ其機ニ達スルヲ以テ之ヲ止ム可カラス若シ消滅セハ更ニ修正說ヲ出ス固ヨリ妨ケナシ

○九番 津田真道 十二番ノ說ニ對シ一言セサルヲ得ス「監督シ云々」ノ修正說ニ決セシヲ以テ「政府ニ於テ」トアルハ不可ナリト云フハ解セサルナリ冒頭ナル「政府ハ銀行諸般ノ業務ヲ監督シ云々」ハ其資格ヲ云ヒ又「政府ニ於テ不利ト認ル云々」ハ其事宜ヲ云フ文理上當然